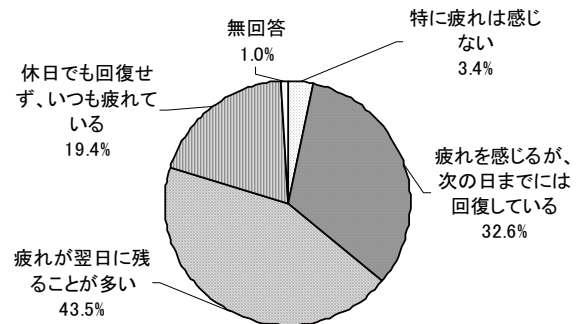


IV 女性労働者の健康・労働実態及び雇用における男女平等に関する各項目の報告

1. 疲れの回復状況

◆全体

特に疲れは感じない	疲れを感じるが、次の日までには回復	疲れが翌日に残ることが多い	休日でも回復せず、いつも疲れている	無回答	計
142 (3.4)	1356 (32.6)	1809 (43.5)	808 (19.4)	40 (1.0)	4155 (100.0)



▲ 図1-1 疲れの回復(全体) ▲

全体では、「いつも疲れている」が約2割で、「疲れが翌日に残ることが多い」と合わせると、7割近くになっている。年齢に関係なく過労状態であることがわかる。また、35歳以上では、「いつも疲れている」が20%を超えている。

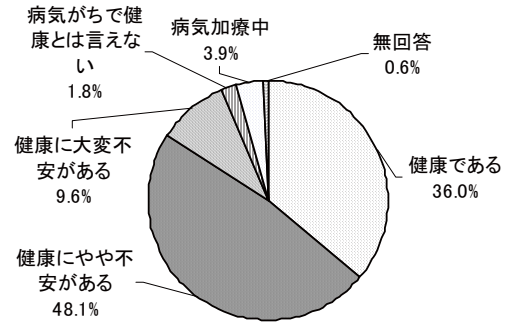
◆年齢別

年齢	特に疲れは感じない	疲れを感じるが、次の日までには回復	疲れが翌日に残ることが多い	休日でも回復せず、いつも疲れている	無回答	計
15～19歳	0 (0.0)	4 (36.4)	1 (9.1)	1 (9.1)	5 (45.5)	11 (100.0)
20～24歳	15 (6.3)	118 (49.6)	83 (34.9)	22 (9.2)	0 (0.0)	238 (100.0)
25～29歳	28 (4.5)	259 (42.0)	263 (42.6)	66 (10.7)	1 (0.2)	617 (100.0)
30～34歳	21 (2.8)	244 (32.2)	363 (48.0)	126 (16.6)	3 (0.4)	757 (100.0)
35～39歳	24 (3.6)	218 (32.8)	279 (42.0)	139 (20.9)	4 (0.6)	664 (100.0)
40～44歳	12 (2.5)	139 (29.1)	217 (45.4)	110 (23.0)	0 (0.0)	478 (100.0)
45～49歳	14 (2.9)	115 (24.2)	217 (45.7)	127 (26.7)	2 (0.4)	475 (100.0)
50～59歳	22 (2.6)	236 (27.7)	370 (43.4)	208 (24.4)	17 (2.0)	853 (100.0)
60～64歳	5 (11.1)	17 (37.8)	14 (31.1)	9 (20.0)	0 (0.0)	45 (100.0)
65歳以上	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
無回答	1 (6.7)	5 (33.3)	1 (6.7)	0 (0.0)	8 (53.3)	15 (100.0)

2. 今の健康状態はどうか

◆全体

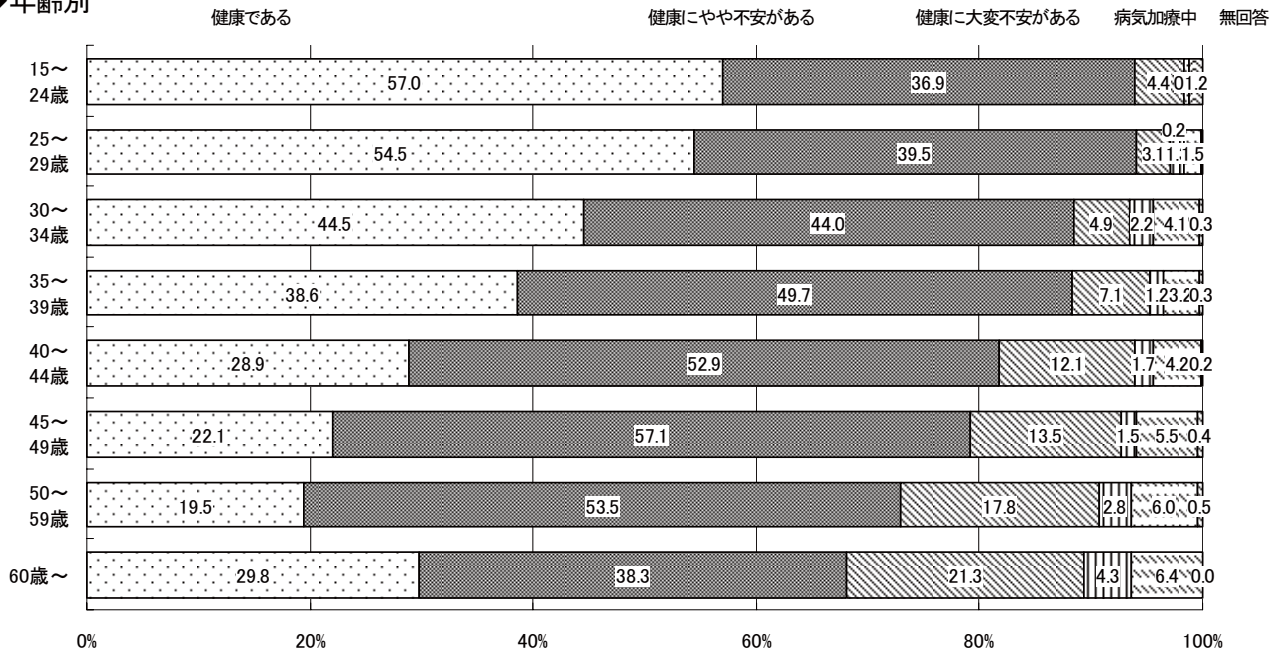
健康である	健康にやや不安がある	健康に大変不安がある	病気がちで健康とは言えない	病気加療中	無回答	計
1497 (36.0)	1999 (48.1)	399 (9.6)	75 (1.8)	162 (3.9)	23 (0.6)	4155 (100.0)



全体では、「健康である」と回答したのは全体の36.0%で、「健康にやや不安がある」「健康に大変不安がある」を合わせると58.7%である。50代では、「健康である」が19.5%となり、年齢が上がるにしたがって「健康である」と回答した人が少なくなっている。

▲ 図2-1 今の健康状態(全体) ▲

◆年齢別



▲ 図2-2 今の健康状態(年齢別) ▲

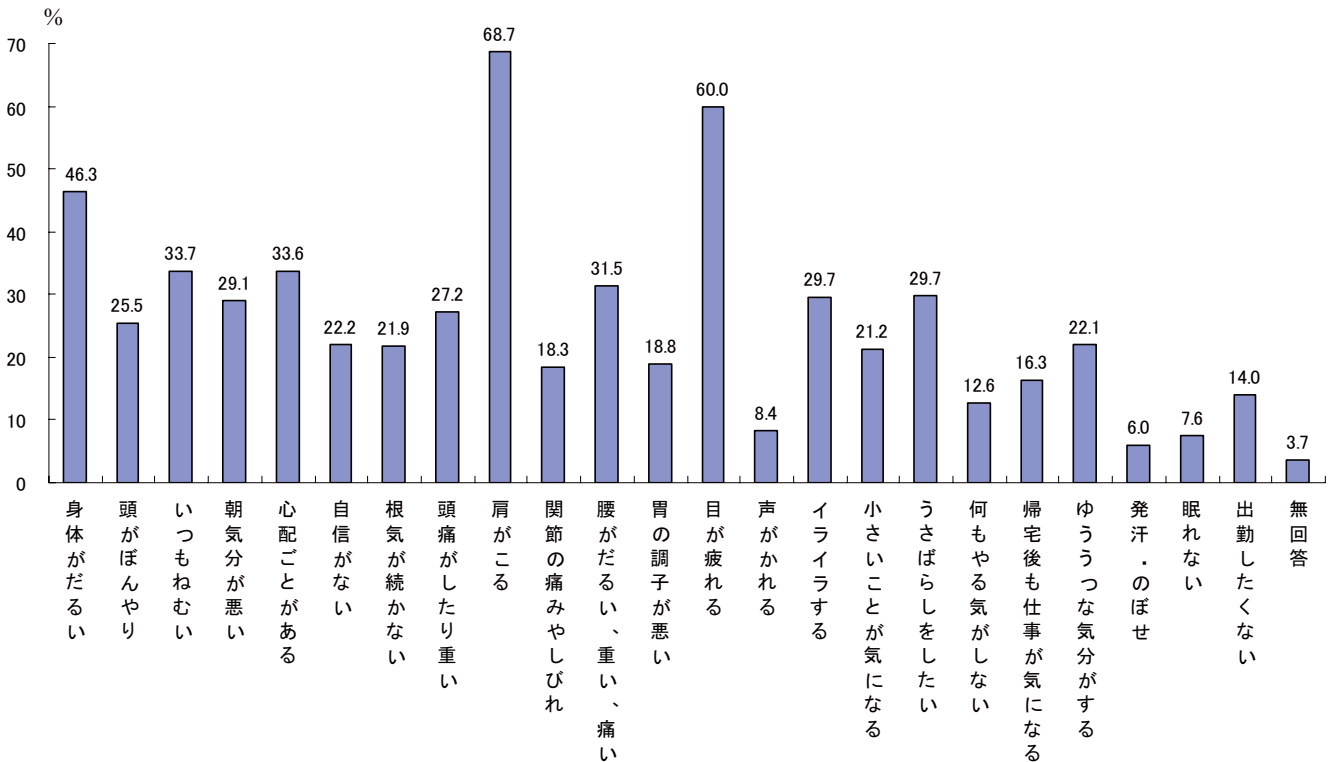
3. 最近、次のような自覚症状がありますか(あてはまるすべて複数回答)

◆全体

身体がだるい	頭がぼんやりしたりさえない	いつもねむい	朝起きた時気分がすぐれない	心配ごとがある	自信がもてず、自分が他人より劣っていると思える	根気が続かない	頭痛、頭が重い
1924 (46.3)	1061 (25.5)	1399 (33.7)	1208 (29.1)	1396 (33.6)	921 (22.2)	910 (21.9)	1129 (27.2)

肩がこる	腕や手足・膝・関節の痛みやしびれがある	腰がだるい、重い、痛い	胃の調子が悪い	目が疲れる、目がしょぼしょぼする	声がかわる	なんとなくイライラし、ちょっとしたことがカンにさわる	ささいなことが気になる
2856 (68.7)	761 (18.3)	1307 (31.5)	782 (18.8)	2492 (60.0)	347 (8.4)	1232 (29.7)	881 (21.2)

なにかでパ ーッとうさ ばらしをし たい	自分の好きな ことでもやる 気がしない	家に帰っても 仕事のことが 気にかかって 困る	ゆううつな気 分がする	発汗・のぼせ	眠れない	出勤したくない	無回答	計
1235 (29.7)	524 (12.6)	678 (16.3)	917 (22.1)	251 (6.0)	315 (7.6)	582 (14.0)	153 (3.7)	4155 (100.0)



▲ 図3 最近の自覚症状(全体—複数回答) ▲

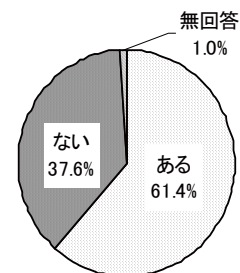
全体では、最も多かったのは「肩がこる」68.7%、次に「目が疲れる」60.0%、「身体がだるい」46.3%で、身体的な症状を訴える人が多かった。また、「心配ごとがある」33.6%、「イライラする」、「うさばらしをしたい」29.7%、「ゆううつな気分がする」22.1%、「小さいことが気になる」21.2%など精神的な症状も多くの方が訴えている。

4-①体の具合が悪く休みたくても休めなかったことがありますか

◆全体

ある	ない	無回答	計
2551 (61.4)	1561 (37.6)	43 (1.0)	4155 (100.0)

全体で「ある」と回答しているのは61.4%となっている。

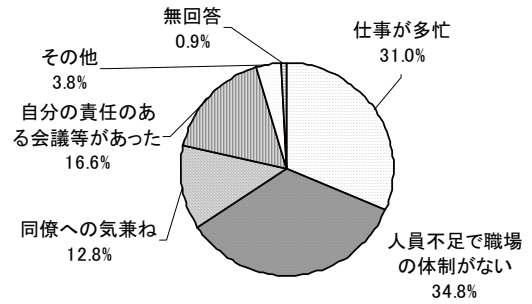


▲ 図4-1 具合が悪くても休めなかったことの有無(全体) ▲

4-②「ある」と回答した人の休めなかった理由

◆全体

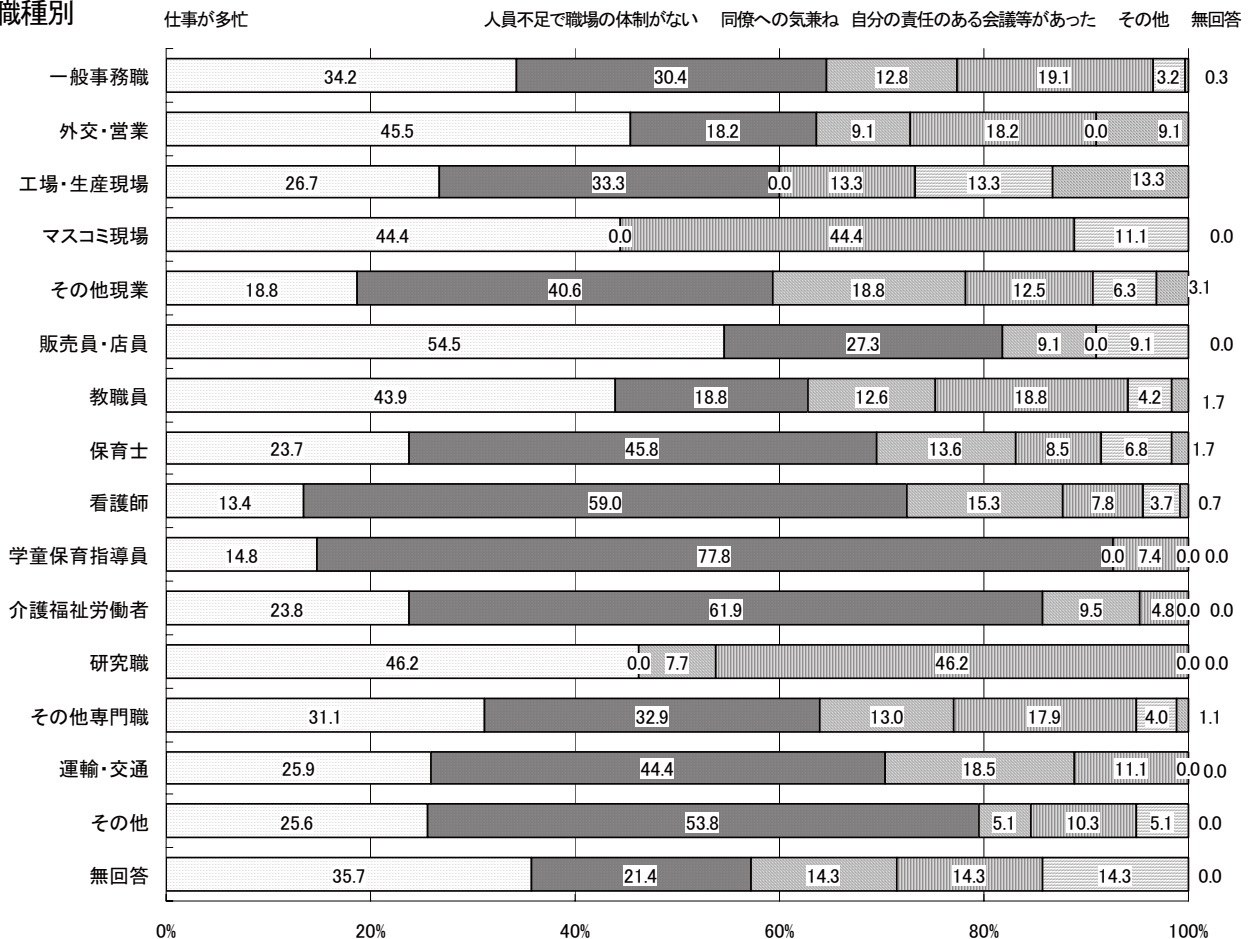
仕事が多忙	人員不足で職場の体制がない	同僚への気兼ね	自分の責任のある会議等があった	その他	無回答	計
792 (31.0)	887 (34.8)	327 (12.8)	424 (16.6)	98 (3.8)	23 (0.9)	2551 (100.0)



▲ 図4-2 休めなかった理由(全体) ▲

全体では、休めなかった主な理由は「人員不足」34.8%、「仕事が多忙」31.0%となり二つの理由が全体の2/3を占めている。職種別では、外交・営業、マスコミ現場、販売店・店員、教職員、研究職で、「仕事が多忙」の回答者が4割を超えている。学童保育指導員77.8%、介護福祉労働者61.9%、看護師59.0%で「人員不足」と回答している。

◆職種別



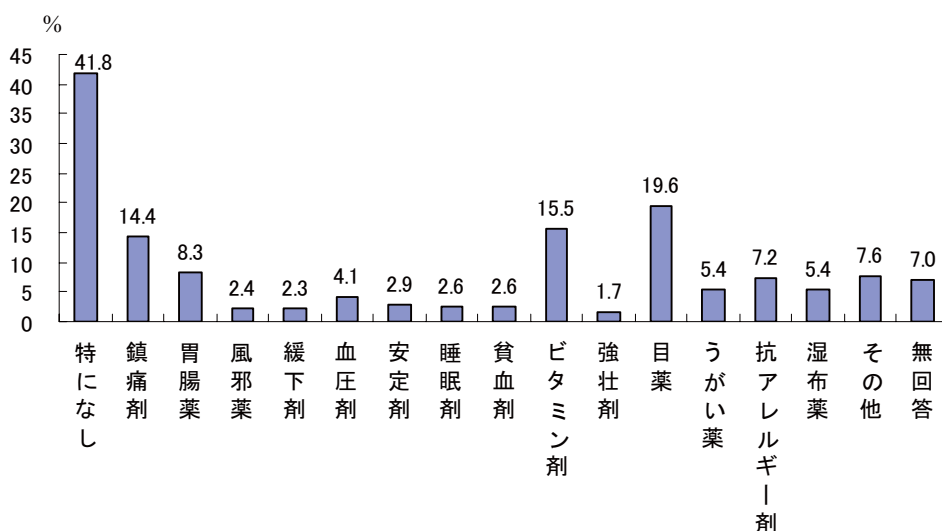
▲ 図4-3 休めなかった理由(職種別) ▲

5. 常用している薬がありますか(あてはまる項目すべて複数回答)

◆全体

特になし	鎮痛剤	胃腸薬	風邪薬	緩下剤	血压剤	安定剤	睡眠剤	貧血剤
1737 (41.8)	600 (14.4)	343 (8.3)	99 (2.4)	97 (2.3)	170 (4.1)	122 (2.9)	110 (2.6)	107 (2.6)
ビタミン剤	強壮剤	目薬	うがい薬	抗アレルギー剤	湿布薬	その他	無回答	計
646 (15.5)	71 (1.7)	815 (19.6)	226 (5.4)	301 (7.2)	224 (5.4)	315 (7.6)	291 (7.0)	4155 (100.0)

全体では、薬剤を常用している人が6割弱。服用しているのは、「目薬」19.6%、「ビタミン剤」15.5%、「鎮痛剤」14.4%となった。



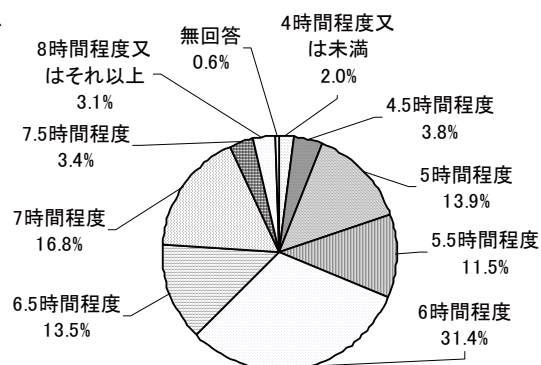
▲ 図5 常用している薬(全体—複数回答) ▲

6. 1日の平均睡眠時間

◆全体

4時間程度又は未満	4.5時間程度	5時間程度	5.5時間程度	6時間程度	6.5時間程度	7時間程度	7.5時間程度	8時間程度又はそれ以上	無回答	計
82 (2.0)	157 (3.8)	577 (13.9)	479 (11.5)	1306 (31.4)	563 (13.5)	699 (16.8)	141 (3.4)	127 (3.1)	24 (0.6)	4155 (100.0)

全体でもっとも多かったのは「6時間程度」31.4%で、次いで「7時間程度」16.8%、「5時間程度」13.9%、「6.5時間程度」13.5%となった。5.5時間程度以下が約3割を超えている。02年調査の24.54%から6.7ポイント増加した。一方「7時間程度」以上は23.3%で、02年調査から2.2ポイント減少した。以上のことから、睡眠時間が減少傾向にあることがわかる。



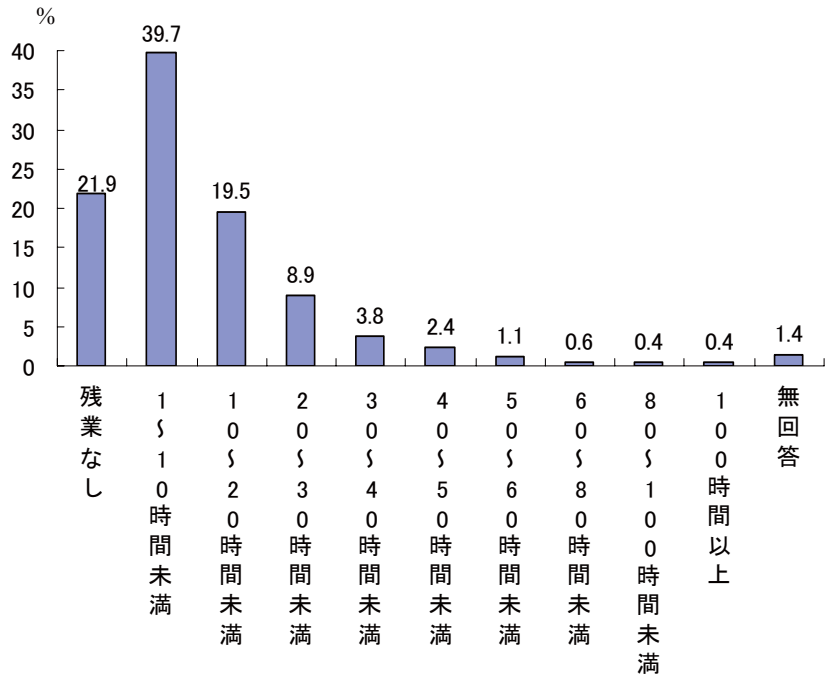
▲ 図6 1日の平均睡眠時間(全体) ▲

7. 最近1ヶ月の職場での残業時間(超勤時間数)

◆全体

残業なし	1~10 時間未満	10~20 時間未満	20~30 時間未満	30~40 時間未満	40~50 時間未満	50~60 時間未満	60~80 時間未満	80~100 時間未満	100 時間以上	無回答	計
911 (21.9)	1650 (39.7)	809 (19.5)	369 (8.9)	158 (3.8)	99 (2.4)	46 (1.1)	24 (0.6)	16 (0.4)	16 (0.4)	57 (1.4)	4155 (100.0)

全体では、「残業なし」が21.9%で、「1~10時間未満」が39.7%と最も多い。過労死ラインの80時間以上は0.8%、32人でそのうち「100時間以上」は0.4%、16人である。



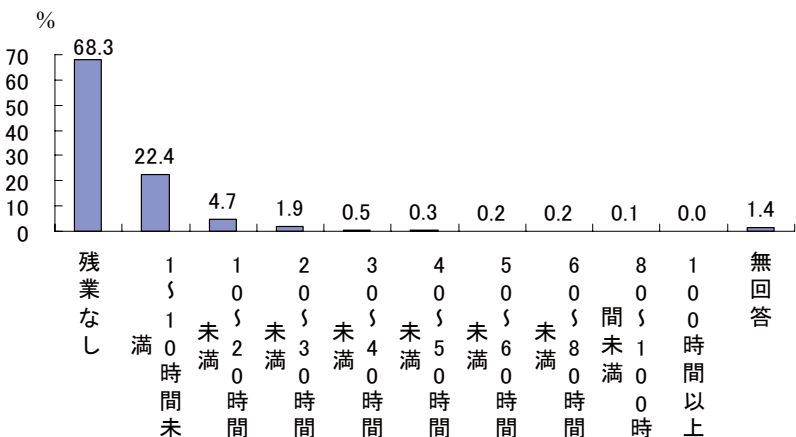
▲ 図7 最近1ヶ月の職場での残業時間(全体) ▲

8. 最近1ヶ月の家庭への持ち帰り残業時間

◆全体

残業なし	1~10 時間未満	10~20 時間未満	20~30 時間未満	30~40 時間未満	40~50 時間未満	50~60 時間未満	60~80 時間未満	80~100 時間未満	100時間 以上	無回答	計
2836 (68.3)	930 (22.4)	197 (4.7)	79 (1.9)	22 (0.5)	13 (0.3)	8 (0.2)	7 (0.2)	4 (0.1)	0 (0.0)	59 (1.4)	4155 (100.0)

全体では、「残業なし」が68.3%と最も多く、次いで「1~10時間未満」が22.4%となった。



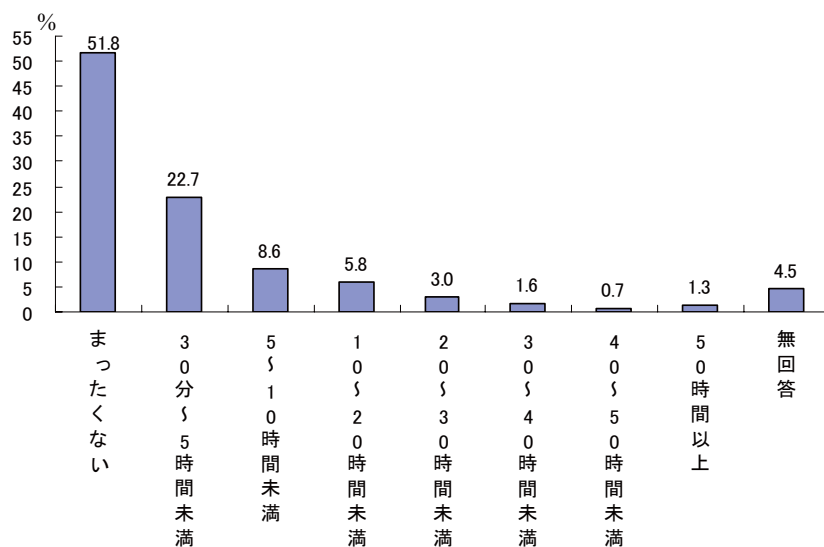
▲ 図8 最近1ヶ月の家庭への持ち帰り残業時間(全体) ▲

9. 最近1ヶ月の残業代未払い(いわゆるサービス残業)時間数(持ち帰り残業を含む)

◆全体

まったく ない	30分～5 時間未満	5～10 時間未満	10～20 時間未満	20～30 時間未満	30～40 時間未満	40～50 時間未満	50時間 以上	無回答	計
2152 (51.8)	944 (22.7)	356 (8.6)	243 (5.8)	125 (3.0)	66 (1.6)	29 (0.7)	54 (1.3)	186 (4.5)	4155 (100.0)

全体では、「まったくない」が51.8%と半数をしめている。次いで「30分～5時間未満」が22.7%となった。02年調査の「30分～5時間未満」は23.3%で、今回0.6ポイント増加した。



▲ 図9 最近1ヶ月の未払い残業時間(全体) ▲

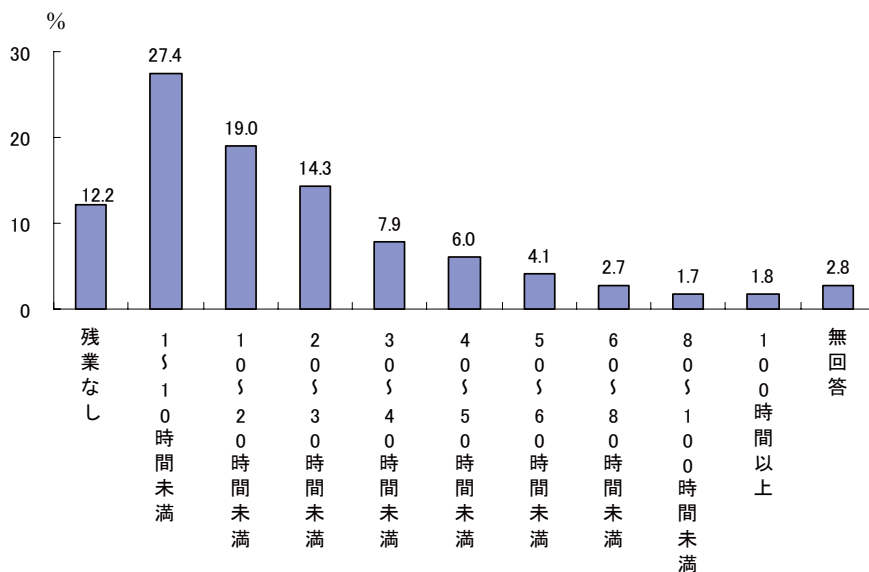
10. この1年間で最も残業が多かった月の残業時間(持ち帰り残業を含む)

◆全体

残業なし	1～10 時間未満	10～20 時間未満	20～30 時間未満	30～40 時間未満	40～50 時間未満	50～60 時間未満	60～80 時間未満	80～100 時間未満	100 時間以上	無回答	計
508 (12.2)	1139 (27.4)	789 (19.0)	594 (14.3)	328 (7.9)	251 (6.0)	171 (4.1)	114 (2.7)	72 (1.7)	74 (1.8)	115 (2.8)	4155 (100.0)

全体では、「残業なし」が12.2%のみで、最も多かったのは「1～10時間未満」27.4%、次いで「10～20時間未満」19.0%、「20～30時間未満」14.3%となった。過労死ラインの80時間以上が3.5%、そのうち100時間以上は1.8%にのぼる。02年調査との比較では「1～10時間未満」は3.9ポイント、「10～20時間未満」は1.2ポイント減少したが「20時間以上」は、5.5ポイント増加し、38.5%である。80時間以上の過労死ラインについては02年調査の2.6%から0.9ポイント増加している。

職種別に残業時間を見ると、80時間以上は、マスコミ現場 11.8%、工場・生産現場 8.0%、教職員 7.9%となった。



▲ 図10 残業最多月の残業時間(全体) ▲

◆職種別

	残業なし	1~10時間未満	10~20時間未満	20~30時間未満	30~40時間未満	40~50時間未満	50~60時間未満	60~80時間未満	80~100時間未満	100時間以上	無回答	計
一般事務職	92 (6.1)	293 (19.4)	340 (22.5)	273 (18.0)	159 (10.5)	121 (8.0)	79 (5.2)	55 (3.6)	36 (2.4)	31 (2.0)	34 (2.2)	1513 (100.0)
外交・営業	1 (5.6)	2 (11.1)	3 (16.7)	4 (22.2)	4 (22.2)	1 (5.6)	2 (11.1)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (100.0)
工場・生産現場	6 (24.0)	5 (20.0)	1 (4.0)	3 (12.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	4 (16.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	1 (4.0)	1 (4.0)	25 (100.0)
マスコミ現場	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	6 (35.3)	0 (0.0)	5 (29.4)	2 (11.8)	1 (5.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	17 (100.0)
その他現業	27 (37.5)	20 (27.8)	8 (11.1)	5 (6.9)	2 (2.8)	2 (2.8)	3 (4.2)	1 (1.4)	1 (1.4)	0 (0.0)	3 (4.2)	72 (100.0)
販売員・店員	2 (10.5)	7 (36.8)	3 (15.8)	1 (5.3)	4 (21.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (5.3)	1 (5.3)	19 (100.0)
教職員	11 (3.5)	35 (11.0)	45 (14.2)	57 (18.0)	38 (12.0)	39 (12.3)	26 (8.2)	27 (8.5)	12 (3.8)	13 (4.1)	14 (4.4)	317 (100.0)
保育士	9 (4.5)	84 (42.0)	50 (25.0)	24 (12.0)	11 (5.5)	9 (4.5)	3 (1.5)	2 (1.0)	0 (0.0)	3 (1.5)	5 (2.5)	200 (100.0)
看護師	68 (15.7)	174 (40.1)	88 (20.3)	44 (10.1)	18 (4.1)	8 (1.8)	5 (1.2)	1 (0.2)	3 (0.7)	10 (2.3)	15 (3.5)	434 (100.0)
学童保育指導員	2 (5.7)	8 (22.9)	11 (31.4)	8 (22.9)	2 (5.7)	1 (2.9)	2 (5.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.9)	35 (100.0)
介護福祉労働者	6 (14.6)	13 (31.7)	7 (17.1)	7 (17.1)	3 (7.3)	3 (7.3)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	41 (100.0)
研究職	2 (7.4)	4 (14.8)	7 (25.9)	2 (7.4)	2 (7.4)	5 (18.5)	1 (3.7)	0 (0.0)	2 (7.4)	0 (0.0)	2 (7.4)	27 (100.0)
その他専門職	230 (18.4)	444 (35.4)	200 (16.0)	141 (11.3)	71 (5.7)	59 (4.7)	36 (2.9)	24 (1.9)	12 (1.0)	11 (0.9)	25 (2.0)	1253 (100.0)
運輸・交通	17 (27.9)	23 (37.7)	8 (13.1)	4 (6.6)	2 (3.3)	1 (1.6)	1 (1.6)	1 (1.6)	2 (3.3)	1 (1.6)	1 (1.6)	61 (100.0)
その他	22 (25.6)	23 (26.7)	14 (16.3)	16 (18.6)	2 (2.3)	0 (0.0)	3 (3.5)	0 (0.0)	2 (2.3)	1 (1.2)	3 (3.5)	86 (100.0)
無回答	13 (35.1)	4 (10.8)	3 (8.1)	4 (10.8)	2 (5.4)	1 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.7)	9 (24.3)	37 (100.0)

11. 残業をする主な理由(3つ以内回答)

◆全体

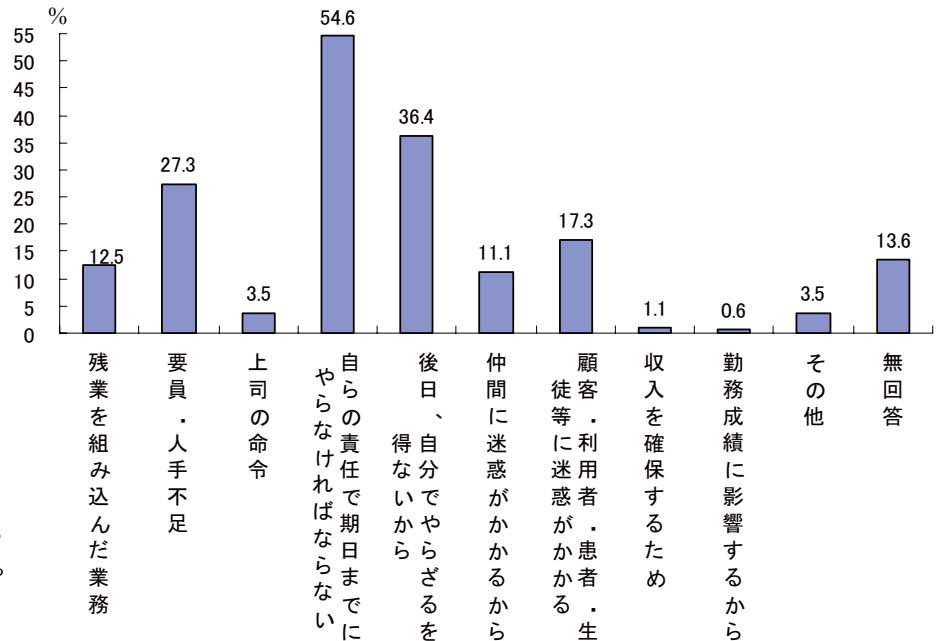
残業を組み込んだ業務	要員・人手不足	上司の命令	自らの責任で期日までにやらなければならない	後日、自分でやらざるを得ないから	仲間に迷惑がかかるから	顧客・利用者・患者・生徒等に迷惑がかかる	収入を確保するため	勤務成績に影響するから	その他	無回答	計
521 (12.5)	1134 (27.3)	144 (3.5)	2268 (54.6)	1512 (36.4)	462 (11.1)	718 (17.3)	46 (1.1)	26 (0.6)	144 (3.5)	566 (13.6)	4155 (100.0)

全体では、最も多かったのは、「自らの責任で期日までにやらなければならない」54.6%、次いで「後日自分でやらざるを得ないから」36.4%、「要因・人手不足」27.3%となった。

02年調査との比較では、上位を占めた理由は同じだが、それぞれ1.0ポイント、2.6ポイント、2.1ポイント増加した。残業の主な理由は業務の集中や人員不足といえる。

職種別では、理由ごとに回答が多かった職種を見ると、「残業を組み込んだ業務だから」が学童保

育指導員 28.6%、工場・生産現場 28.0%、保育士 26.0%。「要員・人手不足」は、販売員・店員 42.1%、看護師 41.2%、学童保育指導員 40.0%と多かった。「自らの責任で期日までにやらなければならない」は、マスコミ現場 100.0%、教職員 71.0%、保育士 66.5%。「後日自分でやらざるを得ないから」は教職員 50.2%。「仲間に迷惑がかかる」は看護師で 24.7%。「顧客・利用者・患者・生徒等に迷惑がかかる」は、外交・営業で 44.0%、教職員で 42.0%。「勤務成績に影響するから」は研究職で 18.5%と多かった。



▲ 図11 残業をする主な理由(全体-3つ以内回答) ▲

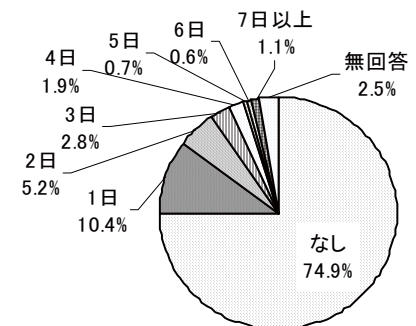
◆職種別

	残業を組み込んだ業務	要員・人手不足	上司の命令	自らの責任で期日までにやらなければならない	後日、自分でやらざるを得ないから	仲間に迷惑がかかるから	顧客・利用者・患者・生徒等に迷惑がかかる	収入を確保するため	勤務成績に影響するから	その他	無回答	計
一般事務職	183 (12.1)	531 (35.1)	44 (2.9)	911 (60.2)	675 (44.6)	140 (9.3)	267 (17.6)	23 (1.5)	7 (0.5)	34 (2.2)	111 (7.3)	1513 (100.0)
外交・営業	3 (16.7)	4 (22.2)	0 (0.0)	11 (61.1)	7 (38.9)	1 (5.6)	8 (44.4)	0 (0.0)	1 (5.6)	1 (5.6)	1 (5.6)	18 (100.0)
工場・生産現場	7 (28.0)	8 (32.0)	1 (4.0)	6 (24.0)	5 (20.0)	1 (4.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	9 (36.0)	25 (100.0)
マスコミ現場	3 (17.6)	5 (29.4)	0 (0.0)	17 (100.0)	5 (29.4)	3 (17.6)	3 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)
その他現業	12 (16.7)	17 (23.6)	5 (6.9)	19 (26.4)	15 (20.8)	4 (5.6)	5 (6.9)	0 (0.0)	1 (1.4)	3 (4.2)	29 (40.3)	72 (100.0)
販売員・店員	2 (10.5)	8 (42.1)	0 (0.0)	8 (42.1)	5 (26.3)	3 (15.8)	6 (31.6)	0 (0.0)	1 (5.3)	0 (0.0)	2 (10.5)	19 (100.0)
教職員	38 (12.0)	51 (16.1)	3 (0.9)	225 (71.0)	159 (50.2)	56 (17.7)	133 (42.0)	0 (0.0)	1 (0.3)	16 (5.0)	14 (4.4)	317 (100.0)
保育士	52 (26.0)	36 (18.0)	5 (2.5)	133 (66.5)	88 (44.0)	25 (12.5)	19 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (6.5)	12 (6.0)	200 (100.0)
看護師	48 (11.1)	179 (41.2)	11 (2.5)	202 (46.5)	92 (21.2)	107 (24.7)	75 (17.3)	2 (0.5)	1 (0.2)	20 (4.6)	77 (17.7)	434 (100.0)
学童保育指導員	10 (28.6)	14 (40.0)	0 (0.0)	19 (54.3)	10 (28.6)	3 (8.6)	6 (17.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.6)	2 (5.7)	35 (100.0)
介護福祉労働者	9 (22.0)	9 (22.0)	2 (4.9)	22 (53.7)	15 (36.6)	1 (2.4)	12 (29.3)	2 (4.9)	0 (0.0)	4 (9.8)	6 (14.6)	41 (100.0)
研究職	3 (11.1)	3 (11.1)	1 (3.7)	18 (66.7)	12 (44.4)	2 (7.4)	2 (7.4)	1 (3.7)	5 (18.5)	0 (0.0)	4 (14.8)	27 (100.0)
その他専門職	123 (9.8)	222 (17.7)	66 (5.3)	630 (50.3)	396 (31.6)	102 (8.1)	154 (12.3)	10 (0.8)	9 (0.7)	41 (3.3)	232 (18.5)	1253 (100.0)
運輸・交通	7 (11.5)	16 (26.2)	3 (4.9)	15 (24.6)	12 (19.7)	6 (9.8)	8 (13.1)	2 (3.3)	0 (0.0)	3 (4.9)	17 (27.9)	61 (100.0)
その他	18 (20.9)	25 (29.1)	1 (1.2)	24 (27.9)	10 (11.6)	5 (5.8)	14 (16.3)	3 (3.5)	0 (0.0)	4 (4.7)	30 (34.9)	86 (100.0)
無回答	3 (8.1)	6 (16.2)	2 (5.4)	8 (21.6)	6 (16.2)	3 (8.1)	2 (5.4)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	20 (54.1)	37 (100.0)

12. 最近1ヶ月の休日出勤の日数

◆全体

なし	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日以上	無回答	計
3113 (74.9)	434 (10.4)	214 (5.2)	116 (2.8)	77 (1.9)	30 (0.7)	23 (0.6)	44 (1.1)	104 (2.5)	4155 (100.0)



全体では「なし」が最も多く、74.9%、次いで「1日」10.4%、「2日」5.2%だった。

▲ 図12 最近の1ヶ月間の休日出勤の日数(全体) ▲

13. 最近1ヶ月の休日の日数

◆全体

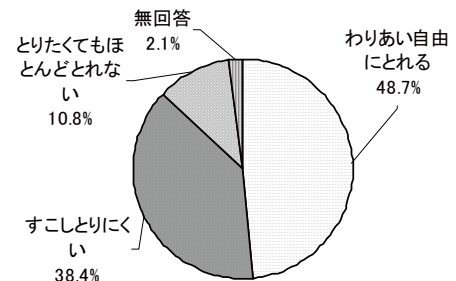
なし	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日以上	無回答	計
381 (9.2)	758 (18.2)	458 (11.0)	151 (3.6)	102 (2.5)	95 (2.3)	149 (3.6)	238 (5.7)	1633 (39.3)	190 (4.6)	4155 (100.0)

全体では、最も多かったのは、「8日以上」39.3%、次いで「1日」18.2%、「2日」11.0%となった。

14. 年次有給休暇はとりたいときにとれますか

◆全体

わりあい自由にとれる	すこしとりにくい	とりたくてもほとんどとれない	無回答	計
2022 (48.7)	1596 (38.4)	448 (10.8)	89 (2.1)	4155 (100.0)

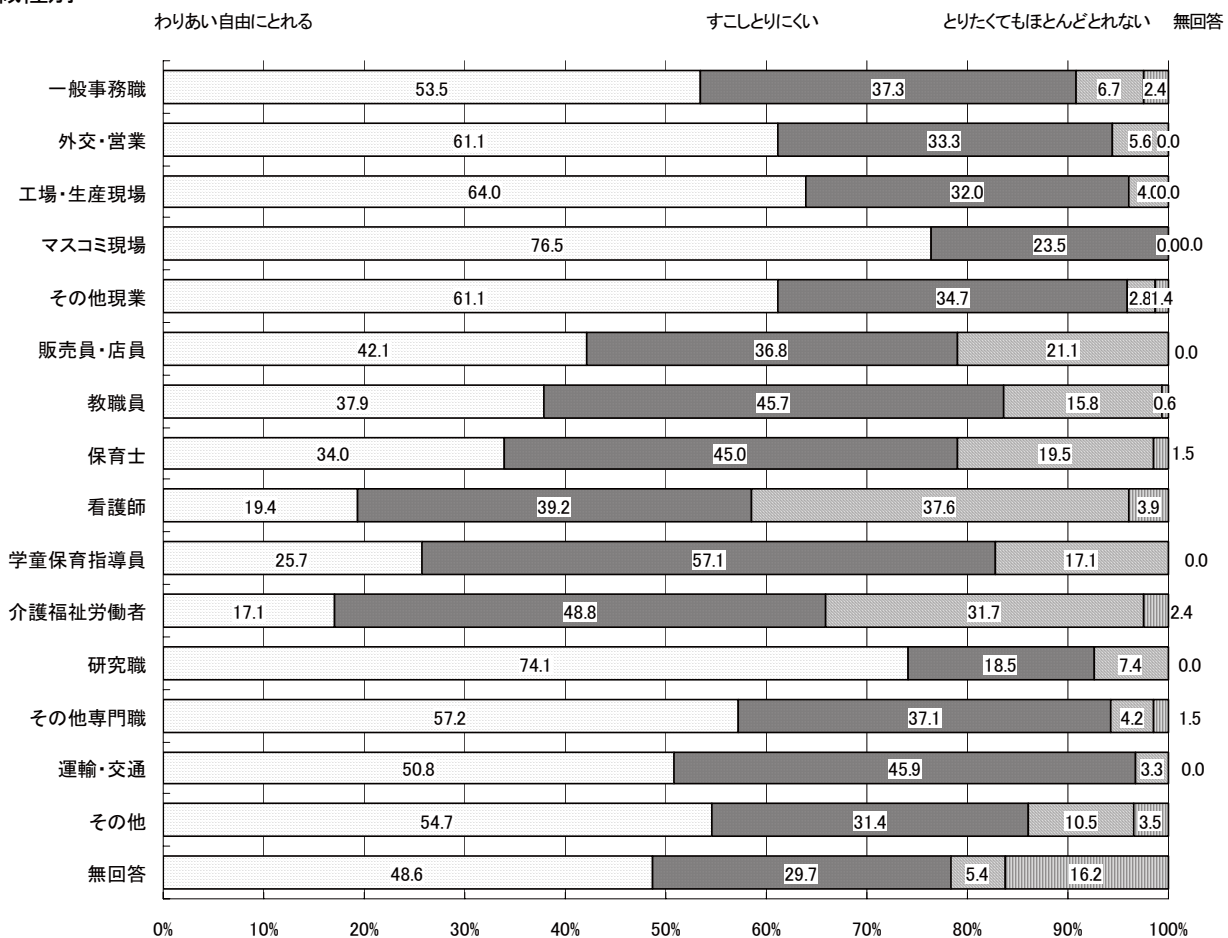


▲ 図14-1 年次有給休暇のとりやすさ(全体) ▲

全体では「わりあい自由にとれる」が最も多く48.7%、次いで「すこしとりにくい」38.4%だった。「とりたくてもほとんどとれない」が1割いる。02年調査では、それぞれ49.9%、37.3%、10.7%で、傾向としては変わらないが、全体に休みづらくなっていることが分かる。職種別では、「わりあい自由にとれる」が最も多いのはマスコミ現場76.5%、次いで研究職74.1%。最も少ないのは介護福祉労働者17.1%、次いで看護師の19.4%、学童保育指導員25.7%だった。「とりたくてもほとんどとれない」が最も多かったのは看護師の37.6%、介護福祉労働者31.7%だった。

「とりたくてもほとんどとれない」が最も多かったのは看護師の37.6%、介護福祉労働者31.7%だった。

◆職種別



▲ 図14-2 年次有給休暇のとりやすさ(職種別) ▲

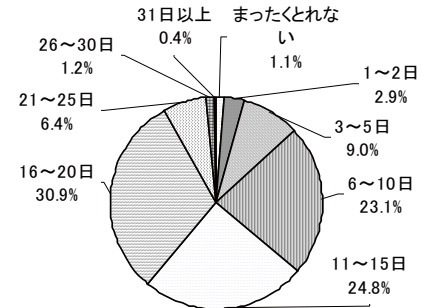
15. 昨年1年間の年休日数(今年の新規採用者、昨年出産・育児・介護で長期に休業した人を除く)(回答除外 448名)

◆全体

まったくとれない	1～2日	3～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～25日	26～30日	31日以上	計
42 (1.1)	109 (2.9)	334 (9.0)	858 (23.1)	921 (24.8)	1145 (30.9)	239 (6.4)	45 (1.2)	14 (0.4)	3707 (100.0)

全体では、「16～20日」が最も多く30.9%、次いで「11～15日」24.8%、「6～10日」23.1%だった。

職種別でみると、年休日数はばらつきがあり、「6～10日」が多かったのは、看護師41.3%、研究職39.1%、保育士37.5%などで、「3～5日」が多かったのは、学童保育指導員34.3%、工場・生産現場30.0%、介護福祉労働者28.9%だった。10日以下が7割を超えているのは、介護福祉労働者、販売員・店員だった。



▲ 図15 昨年1年間の年休日数(全体) ▲

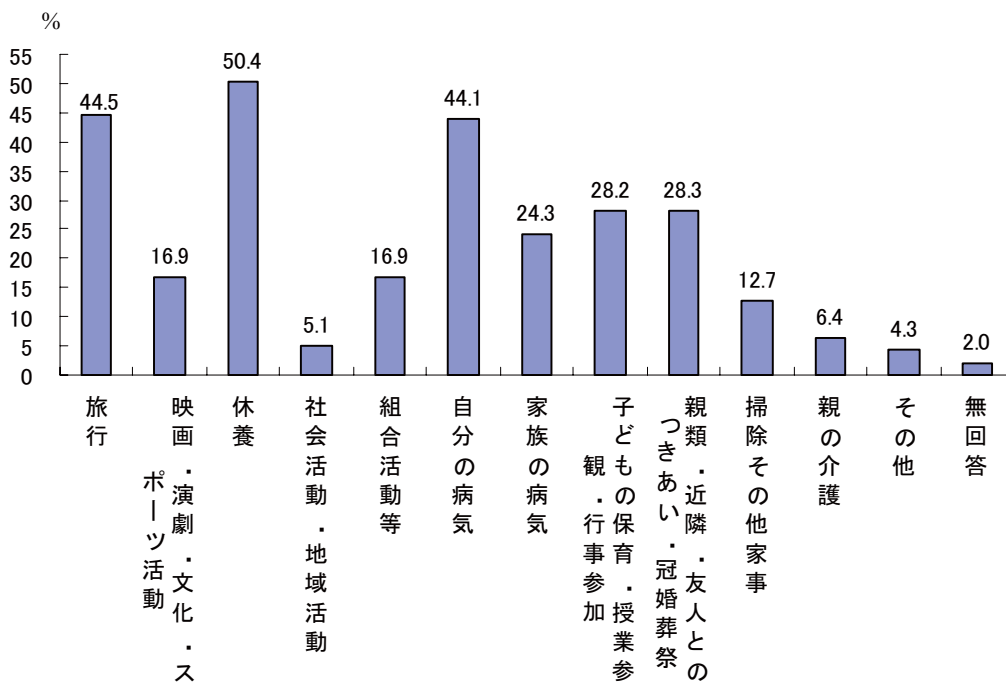
◆職種別

	まったくとれない	1～2日	3～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～25日	26～30日	31日以上	計
一般事務職	14 (1.0)	39 (2.8)	119 (8.7)	303 (22.1)	344 (25.0)	428 (31.1)	104 (7.6)	18 (1.3)	5 (0.4)	1374 (100.0)
外交・営業	2 (11.1)	1 (5.6)	1 (5.6)	4 (22.2)	2 (11.1)	5 (27.8)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (100.0)
工場・生産現場	0 (0.0)	1 (5.0)	6 (30.0)	4 (20.0)	4 (20.0)	5 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (100.0)
マスコミ現場	0 (0.0)	1 (6.3)	3 (18.8)	4 (25.0)	4 (25.0)	2 (12.5)	2 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (100.0)
その他現業	0 (0.0)	1 (1.5)	7 (10.6)	9 (13.6)	14 (21.2)	29 (43.9)	5 (7.6)	1 (1.5)	0 (0.0)	66 (100.0)
販売員・店員	1 (6.3)	2 (12.5)	4 (25.0)	5 (31.3)	2 (12.5)	2 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (100.0)
教職員	1 (0.3)	4 (1.3)	27 (8.9)	83 (27.5)	82 (27.2)	90 (29.8)	9 (3.0)	4 (1.3)	2 (0.7)	302 (100.0)
保育士	3 (1.6)	11 (6.0)	25 (13.6)	69 (37.5)	56 (30.4)	11 (6.0)	6 (3.3)	3 (1.6)	0 (0.0)	184 (100.0)
看護師	10 (2.6)	26 (6.8)	62 (16.2)	158 (41.3)	67 (17.5)	48 (12.5)	10 (2.6)	0 (0.0)	2 (0.5)	383 (100.0)
学童保育指導員	1 (2.9)	2 (5.7)	12 (34.3)	7 (20.0)	6 (17.1)	7 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)
介護福祉労働者	2 (5.3)	5 (13.2)	11 (28.9)	11 (28.9)	3 (7.9)	4 (10.5)	2 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	38 (100.0)
研究職	0 (0.0)	1 (4.3)	3 (13.0)	9 (39.1)	7 (30.4)	3 (13.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (100.0)
その他専門職	6 (0.6)	9 (0.8)	42 (3.9)	160 (14.9)	294 (27.3)	460 (42.7)	84 (7.8)	18 (1.7)	4 (0.4)	1077 (100.0)
運輸・交通	0 (0.0)	3 (5.5)	2 (3.6)	6 (10.9)	13 (23.6)	21 (38.2)	10 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	55 (100.0)
その他	2 (2.7)	0 (0.0)	6 (8.0)	22 (29.3)	20 (26.7)	21 (28.0)	3 (4.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	75 (100.0)
無回答	0 (0.0)	3 (12.0)	4 (16.0)	4 (16.0)	3 (12.0)	9 (36.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	25 (100.0)

16. 年次有給休暇をなんのために使いましたか(主な理由を5つ以内回答)

◆全体

旅行	映画・演劇・文化・スポーツ活動	休養	社会活動・地域活動	組合活動等	自分の病気	家族の病気	子どもの保育・授業参観・行事参加	親類・近隣・友人とのつきあい・冠婚葬祭	掃除その他家事	親の介護	その他	無回答	計
1849 (44.5)	703 (16.9)	2096 (50.4)	211 (5.1)	703 (16.9)	1832 (44.1)	1010 (24.3)	1172 (28.2)	1176 (28.3)	529 (12.7)	265 (6.4)	179 (4.3)	83 (2.0)	4155 (100.0)



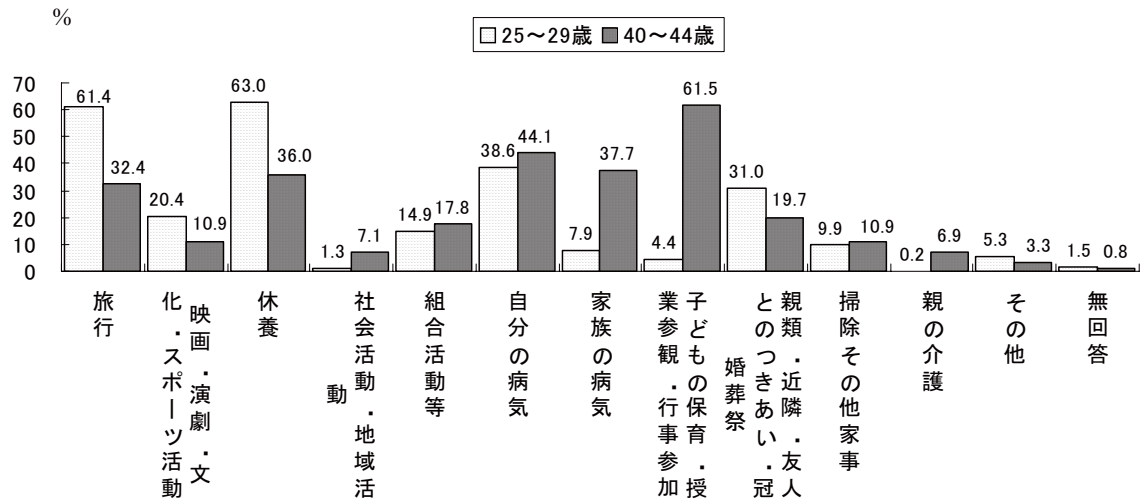
▲ 図16-1 有給休暇の使途(全体—5つ以内回答) ▲

全体では、「休養」が最も多く 50.4%、次いで「旅行」44.5%、「自分の病気」44.1%となった。半数以上が「休養」のため休暇を取得している。年齢別では25～29歳と、40～44歳の比較にみるように、若年は「旅行」、「休養」のため、40～44歳は「家族の病気」「子どもの保育など」のための取得が多い。

◆年齢別

	旅行	文化・スポーツ活動	休養	社会活動・地域活動	組合活動等	自分の病気	家族の病気	保育・授業参観・行事参加	つきあい・冠婚葬祭	掃除その他家事	親の介護	その他	無回答	計
15～19歳	8 (72.7)	1 (9.1)	9 (81.8)	1 (9.1)	2 (18.2)	6 (54.5)	2 (18.2)	2 (18.2)	1 (9.1)	3 (27.3)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	11 (100.0)
20～24歳	132 (55.5)	48 (20.2)	152 (63.9)	7 (2.9)	36 (15.1)	76 (31.9)	10 (4.2)	3 (1.3)	84 (35.3)	22 (9.2)	1 (0.4)	13 (5.5)	6 (2.5)	238 (100.0)
25～29歳	379 (61.4)	126 (20.4)	389 (63.0)	8 (1.3)	92 (14.9)	238 (38.6)	49 (7.9)	27 (4.4)	191 (31.0)	61 (9.9)	1 (0.2)	33 (5.3)	9 (1.5)	617 (100.0)
30～34歳	373 (49.3)	137 (18.1)	441 (58.3)	9 (1.2)	104 (13.7)	380 (50.2)	177 (23.4)	181 (23.9)	170 (22.5)	105 (13.9)	15 (2.0)	29 (3.8)	17 (2.2)	757 (100.0)
35～39歳	256 (38.6)	84 (12.7)	297 (44.7)	31 (4.7)	81 (12.2)	304 (45.8)	249 (37.5)	315 (47.4)	144 (21.7)	96 (14.5)	19 (2.9)	14 (2.1)	12 (1.8)	664 (100.0)
40～44歳	155 (32.4)	52 (10.9)	172 (36.0)	34 (7.1)	85 (17.8)	211 (44.1)	180 (37.7)	294 (61.5)	94 (19.7)	52 (10.9)	33 (6.9)	16 (3.3)	4 (0.8)	478 (100.0)
45～49歳	161 (33.9)	79 (16.6)	191 (40.2)	37 (7.8)	94 (19.8)	200 (42.1)	143 (30.1)	229 (48.2)	122 (25.7)	63 (13.3)	56 (11.8)	17 (3.6)	12 (2.5)	475 (100.0)
50～59歳	359 (42.1)	166 (19.5)	420 (49.2)	78 (9.1)	204 (23.9)	400 (46.9)	191 (22.4)	118 (13.8)	346 (40.6)	118 (13.8)	134 (15.7)	54 (6.3)	12 (1.4)	853 (100.0)

60～64歳	23 (51.1)	10 (22.2)	23 (51.1)	5 (11.1)	4 (8.9)	15 (33.3)	7 (15.6)	2 (4.4)	21 (46.7)	8 (17.8)	6 (13.3)	2 (4.4)	0 (0.0)	45 (100.0)
65歳以上	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
無回答	2 (13.3)	0 (0.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	1 (6.7)	1 (6.7)	2 (13.3)	1 (6.7)	3 (20.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (73.3)	15 (100.0)



▲ 図16-2 20歳代後半と40歳代前半の有給休暇の使途のちがい(全体—5つ以内回答)▲

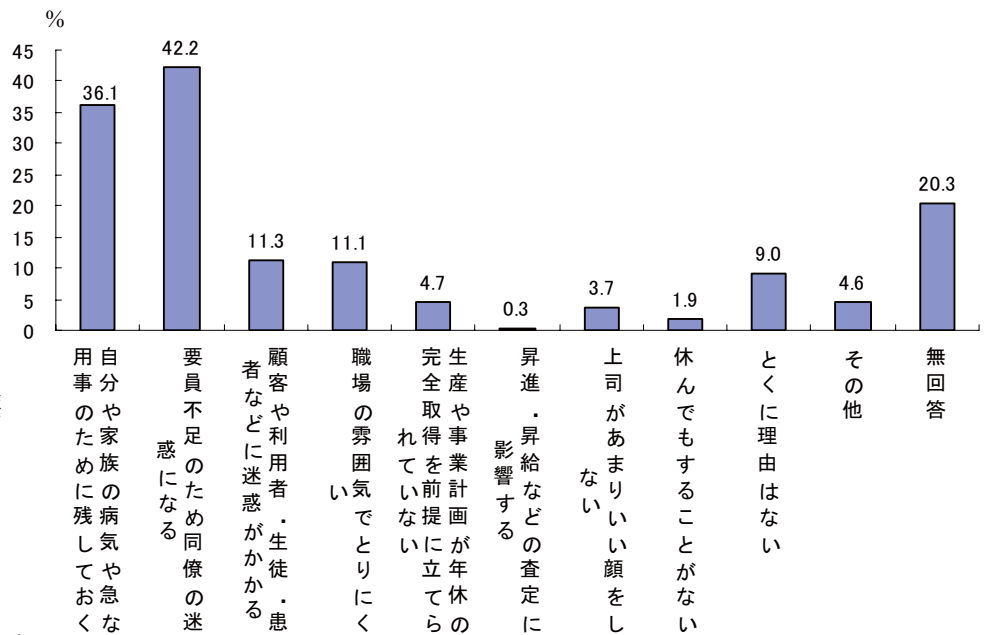
17. 年休をとらなかった(とれなかった)理由(3つ以内回答)

◆全体

理由	回数	割合 (%)
自分や家族の病気や急な用事のために残しておく	1499	(36.1)
要員不足のため同僚の迷惑になる	1755	(42.2)
顧客や利用者・生徒・患者などに迷惑がかかる	470	(11.3)
職場の雰囲気ですりにくい	460	(11.1)
生産や事業計画が年休の完全取得を前提に立てられていない	194	(4.7)
昇進・昇給などの査定に影響する	11	(0.3)
上司があまりいい顔をしない	153	(3.7)
休んでもすることがない	80	(1.9)
とくに理由はない	376	(9.0)
その他	191	(4.6)
無回答	843	(20.3)
計	4155	(100.0)

全体で見ると、「要員不足のため同僚の迷惑になる」42.2%が最も多く、次いで「自分や家族の病気や急な用事のために残しておく」36.1%となった。

職種別で見ると「要員不足のため同僚の迷惑になる」が、学童保育指導員 68.6%、介護福祉労働者 58.5%、看護師 57.1%、教職員 50.2%と多かった。「顧客や利用者・生徒・患者などに迷惑がかかる」が教職員で 50.8%と突出している。



▲ 図17 年休をとらなかった理由(3つ以内回答)▲

◆職種別

	自分や 家族の 病気や 急な用 事のため に残して おく	要員不足 のため同僚 の迷惑に なる	顧客や 利用者・ 生徒・患 者などに 迷惑が かかる	職場の 雰囲気 でとりに くい	生産や 事業計画 が年休の 完全取得 を前提に 立てられて いない	昇進・昇 給などの 査定に影 響する	上司が あまりい い顔を しない	休んでも することが ない	とくに理 由はない	その他	無回答	計
一般事務職	588 (38.9)	642 (42.4)	127 (8.4)	169 (11.2)	61 (4.0)	2 (0.1)	44 (2.9)	30 (2.0)	146 (9.6)	71 (4.7)	281 (18.6)	1513 (100.0)
外交・営業	6 (33.3)	7 (38.9)	3 (16.7)	1 (5.6)	2 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)	2 (11.1)	5 (27.8)	18 (100.0)
工場・生産 現場	8 (32.0)	11 (44.0)	3 (12.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (24.0)	0 (0.0)	6 (24.0)	25 (100.0)
マスコミ現場	7 (41.2)	2 (11.8)	1 (5.9)	2 (11.8)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (5.9)	7 (41.2)	0 (0.0)	2 (11.8)	17 (100.0)
その他現業	23 (31.9)	22 (30.6)	5 (6.9)	8 (11.1)	2 (2.8)	1 (1.4)	2 (2.8)	1 (1.4)	3 (4.2)	1 (1.4)	30 (41.7)	72 (100.0)
販売員・ 店員	4 (21.1)	9 (47.4)	0 (0.0)	4 (21.1)	2 (10.5)	1 (5.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	2 (10.5)	2 (10.5)	3 (15.8)	19 (100.0)
教職員	139 (43.8)	159 (50.2)	161 (50.8)	23 (7.3)	14 (4.4)	0 (0.0)	4 (1.3)	3 (0.9)	9 (2.8)	7 (2.2)	39 (12.3)	317 (100.0)
保育士	50 (25.0)	98 (49.0)	12 (6.0)	39 (19.5)	11 (5.5)	0 (0.0)	15 (7.5)	1 (0.5)	14 (7.0)	12 (6.0)	45 (22.5)	200 (100.0)
看護師	71 (16.4)	248 (57.1)	36 (8.3)	85 (19.6)	40 (9.2)	3 (0.7)	50 (11.5)	7 (1.6)	47 (10.8)	28 (6.5)	66 (15.2)	434 (100.0)
学童保育指 導員	6 (17.1)	24 (68.6)	5 (14.3)	3 (8.6)	2 (5.7)	0 (0.0)	1 (2.9)	0 (0.0)	1 (2.9)	2 (5.7)	6 (17.1)	35 (100.0)
介護福祉労 働者	7 (17.1)	24 (58.5)	11 (26.8)	6 (14.6)	5 (12.2)	0 (0.0)	4 (9.8)	0 (0.0)	2 (4.9)	3 (7.3)	4 (9.8)	41 (100.0)
研究職	10 (37.0)	3 (11.1)	2 (7.4)	0 (0.0)	2 (7.4)	1 (3.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	3 (11.1)	12 (44.4)	27 (100.0)
その他 専門職	509 (40.6)	440 (35.1)	95 (7.6)	98 (7.8)	43 (3.4)	2 (0.2)	24 (1.9)	32 (2.6)	121 (9.7)	57 (4.5)	284 (22.7)	1253 (100.0)
運輸・交通	20 (32.8)	28 (45.9)	0 (0.0)	11 (18.0)	2 (3.3)	0 (0.0)	1 (1.6)	2 (3.3)	5 (8.2)	0 (0.0)	19 (31.1)	61 (100.0)
国家公務員 その他	349 (45.4)	230 (29.9)	65 (8.5)	50 (6.5)	22 (2.9)	1 (0.1)	6 (0.8)	18 (2.3)	71 (9.2)	35 (4.6)	173 (22.5)	768 (100.0)
その他	38 (44.2)	30 (34.9)	6 (7.0)	10 (11.6)	4 (4.7)	0 (0.0)	4 (4.7)	1 (1.2)	7 (8.1)	3 (3.5)	27 (31.4)	86 (100.0)
無回答	13 (35.1)	8 (21.6)	3 (8.1)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	2 (5.4)	2 (5.4)	4 (10.8)	0 (0.0)	14 (37.8)	37 (100.0)

18—①. 通常、日勤の人の最近1ヶ月における午後10時以降の時間外労働回数

◆全体

ない	1～2回	3～4回	5～6回	7～8回	9～10 回	11～12 回	13～14 回	15～16 回	17～18 回	19～20 回	21回 以上	無回答	計
2854 (81.7)	187 (5.4)	68 (1.9)	25 (0.7)	8 (0.2)	6 (0.2)	2 (0.1)	6 (0.2)	2 (0.1)	2 (0.1)	3 (0.1)	3 (0.1)	327 (9.4)	3493 (100.0)

全体では、「ない」が最も多く81.7%、「1～2回」が5.4%となった。

18—②. 通常、夜勤のある人の最近1ヶ月の午後10時以降の夜勤回数

◆全体

1~2回	3~4回	5~6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15~19回	20回以上	無回答	計
21 (3.2)	211 (31.9)	70 (10.6)	46 (6.9)	122 (18.4)	39 (5.9)	13 (2.0)	2 (0.3)	2 (0.3)	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0.0)	3 (0.5)	131 (19.8)	662 (100.0)

全体では、「3~4回」が31.9%と最も多く、次いで「8回」が18.4%となった。無回答が約2割となった。

職種別では、回答者662人のうち看護師が327人、その他専門職が255人となり、ほとんどこの職種の特徴といえる。看護師は「8回」が33.3%と最も多く、次いで「3~4回」18.7%となった。その他専門職は「3~4回」が最も多く47.1%となった。

18—③. 通常、夜勤のある人の最近1ヶ月の宿直勤務回数

◆全体

1~2回	3~4回	5~6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回以上	無回答	計
53 (8.0)	166 (25.1)	55 (8.3)	26 (3.9)	46 (6.9)	15 (2.3)	3 (0.5)	3 (0.5)	0 (0.0)	295 (44.6)	662 (100.0)

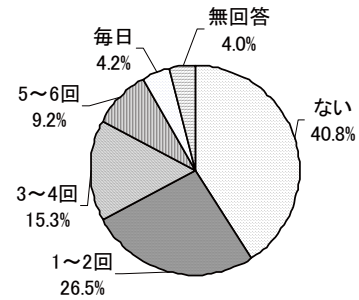
全体では、無回答が4割超で、次いで「3~4回」が25.1%、「5~6回」が8.3%、「1~2回」が8.0%、「8回」が6.9%となった。

職種別では、回答者662人のうち看護師が327人、その他専門職が255人となり、ほとんどこの職種の特徴といえる。看護師は無回答が52.3%、次いで「3~4回」が16.2%、「8回」が11.9%となった。その他専門職は無回答が33.7%、「3~4回」が36.1%、「1~2回」が12.9%、「5~6回」が9.8%となった。

19. 一週間のうち家族といっしょに夕食をとれなかった回数(一人住まい・単身赴任を除く)

◆全体

ない	1~2回	3~4回	5~6回	毎日	無回答	計
1275 (40.8)	827 (26.5)	479 (15.3)	286 (9.2)	131 (4.2)	125 (4.0)	3123 (100.0)

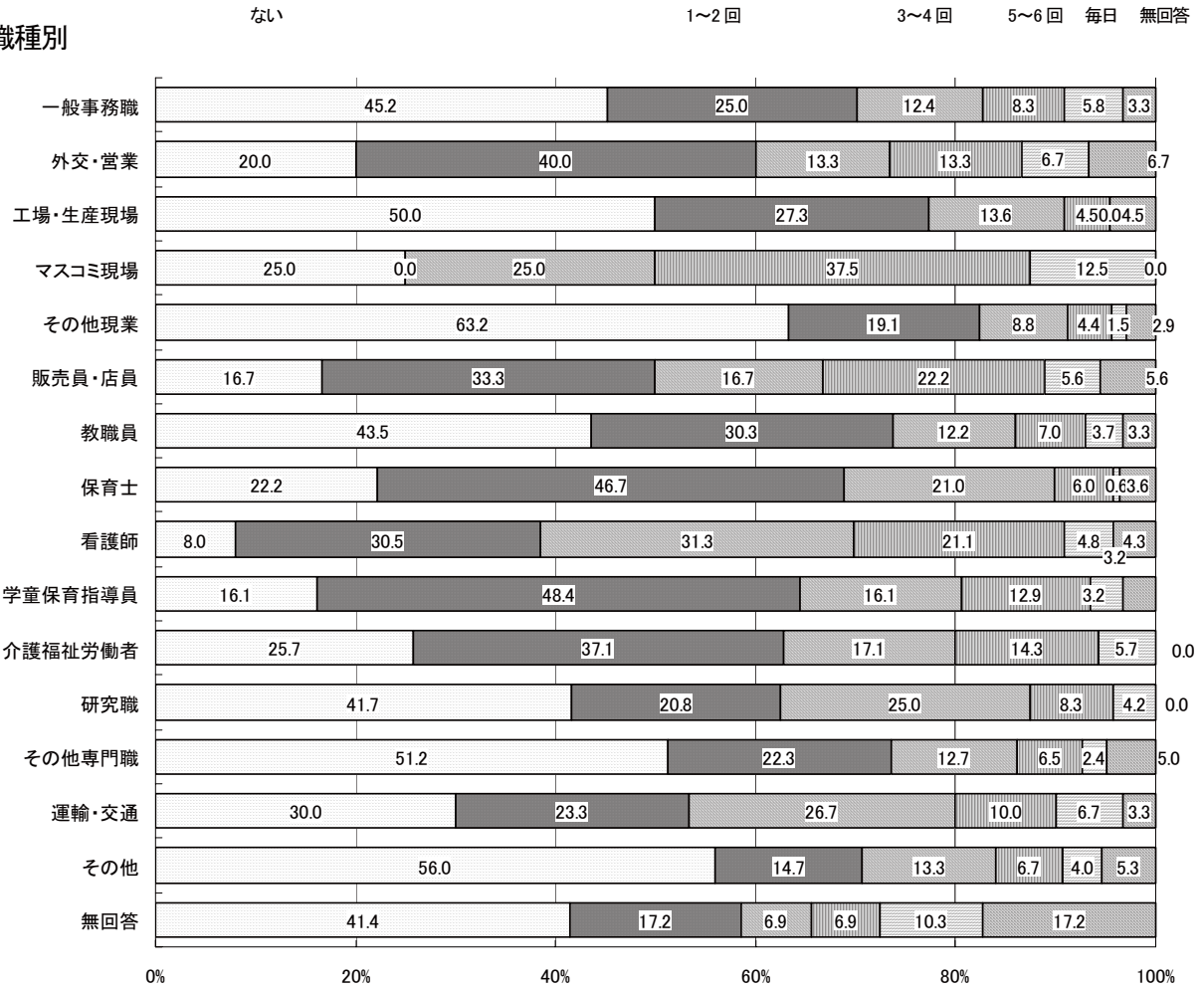


▲ 図19 1週間で家族と夕食がとれない日数(全体) ▲

全体では、「ない」が最も多く40.8%、次いで「1~2回」26.5%であり、週5日は家族と夕食がとれている人が67.1%。

02年調査と比較すると、「ない」が46.7%から40.8%と大きく減り、「3~4回」が13.7%から15.3%、「5~6回」が6.1%から9.2%へと増加している。「毎日」4.2%、「5~6回」9.2%と約13.4%の人がほとんど家族と夕食をとれていなかった。職種別では、「ない」6割を超えたのは、その他現業だった。「ない」が少なかったのは、看護師8.0%だった。「毎日」と「5~6回」を合わせた割合が多かったのは、マスコミ現場50.0%、販売員・店員27.8%、看護師25.9%となった。

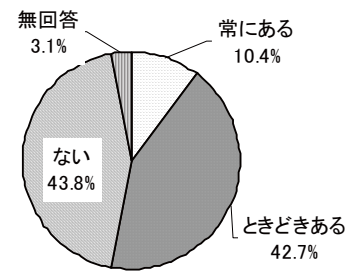
◆職種別



20. 過労による健康や生命への不安がありますか

◆全体

常にある	ときどきある	ない	無回答	計
432 (10.4)	1773 (42.7)	1821 (43.8)	129 (3.1)	4155 (100.0)

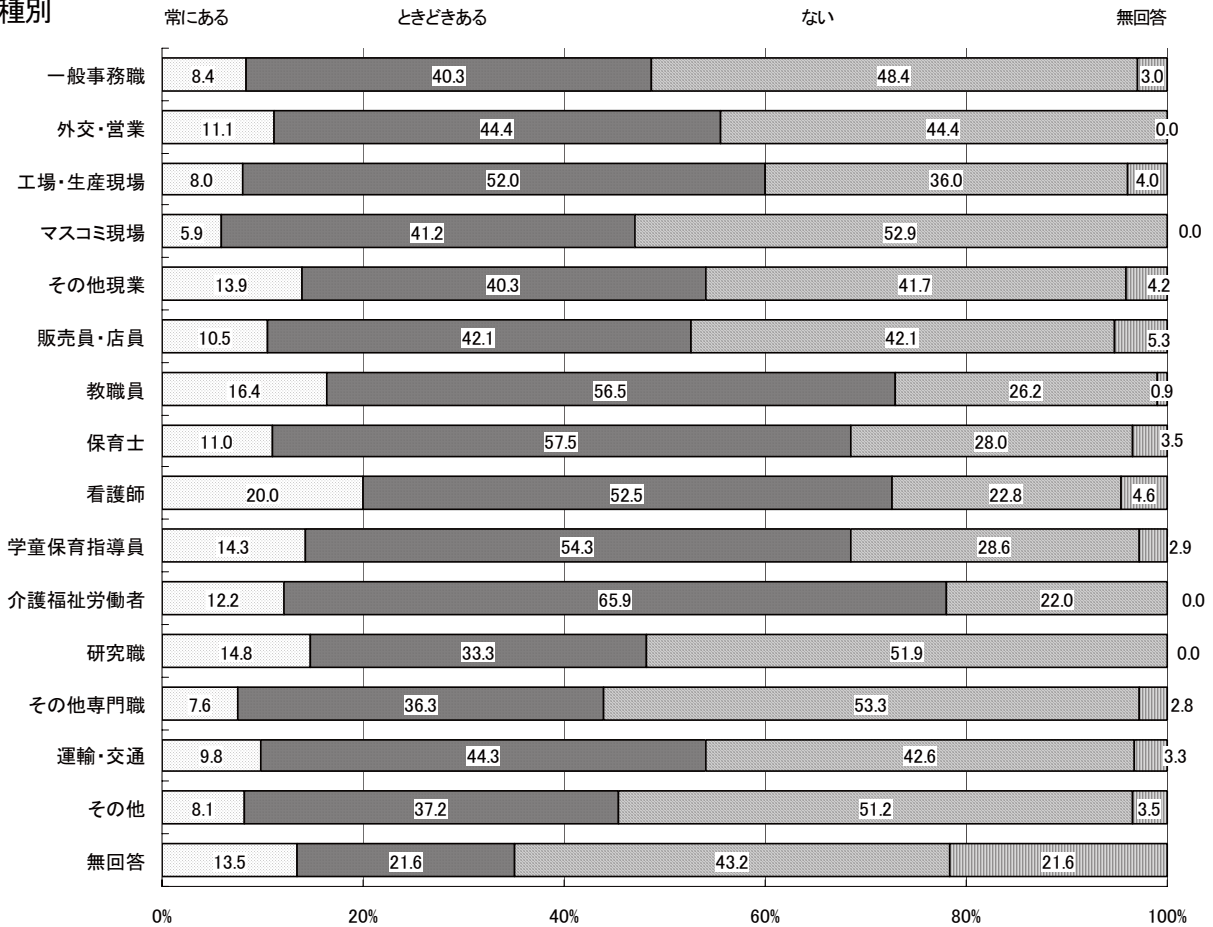


全体では、「常にある」10.4%、「ときどきある」42.7%で、あわせて50%以上の人が不安をもっている。

▲ 図20-1 過労による健康や生命への不安（全体）▲

職種別に見ると、「常にある」と「ときどきある」の合計で最も多いのは、介護福祉労働者78.1%、次いで看護師72.5%、教職員72.9%となった。

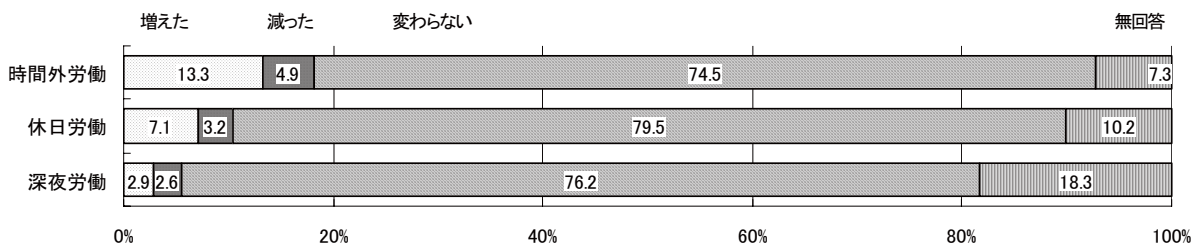
◆職種別



21. 99年4月の労基法等の「女子保護」規定廃止による働き方の変化

◆全体

	増えた	減った	変わらない	無回答	計
時間外労働	553 (13.3)	202 (4.9)	3095 (74.5)	305 (7.3)	4155 (100.0)
休日労働	296 (7.1)	134 (3.2)	3302 (79.5)	423 (10.2)	4155 (100.0)
深夜労働	120 (2.9)	108 (2.6)	3167 (76.2)	760 (18.3)	4155 (100.0)

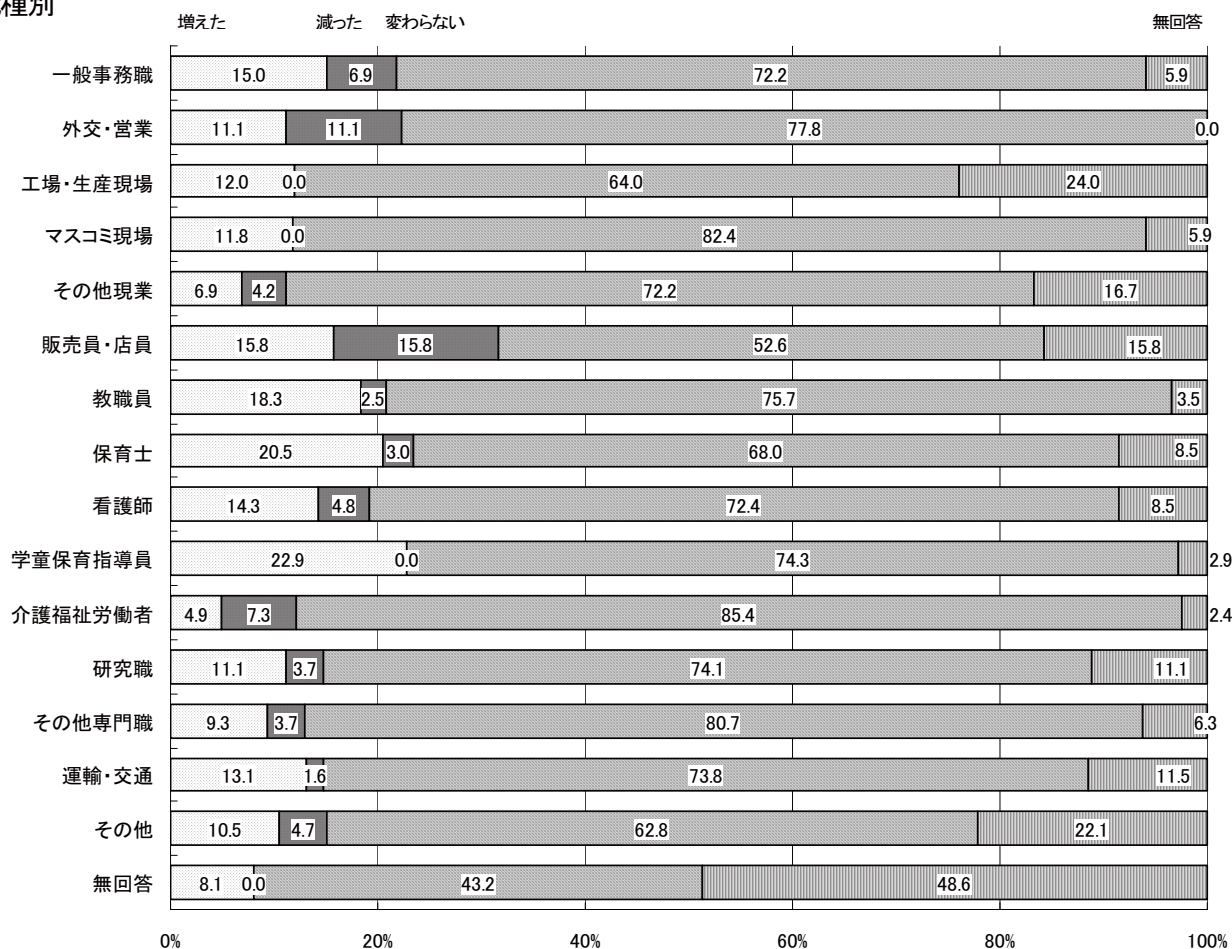


▲ 図21-1 「女子保護」規定廃止による働き方の変化 (全体) ▲

全体では、それぞれ「変わらない」が70%以上を占めているが、「増えた」と回答している人は、02年調査と比較すると「時間外労働」8.4%から13.3%、「休日労働」4.3%から7.1%、「深夜労働」2.3%から2.9%と増加しており、女子保護規定撤廃により時間外・休日・深夜労働が増えている

〈A 時間外労働〉

◆職種別

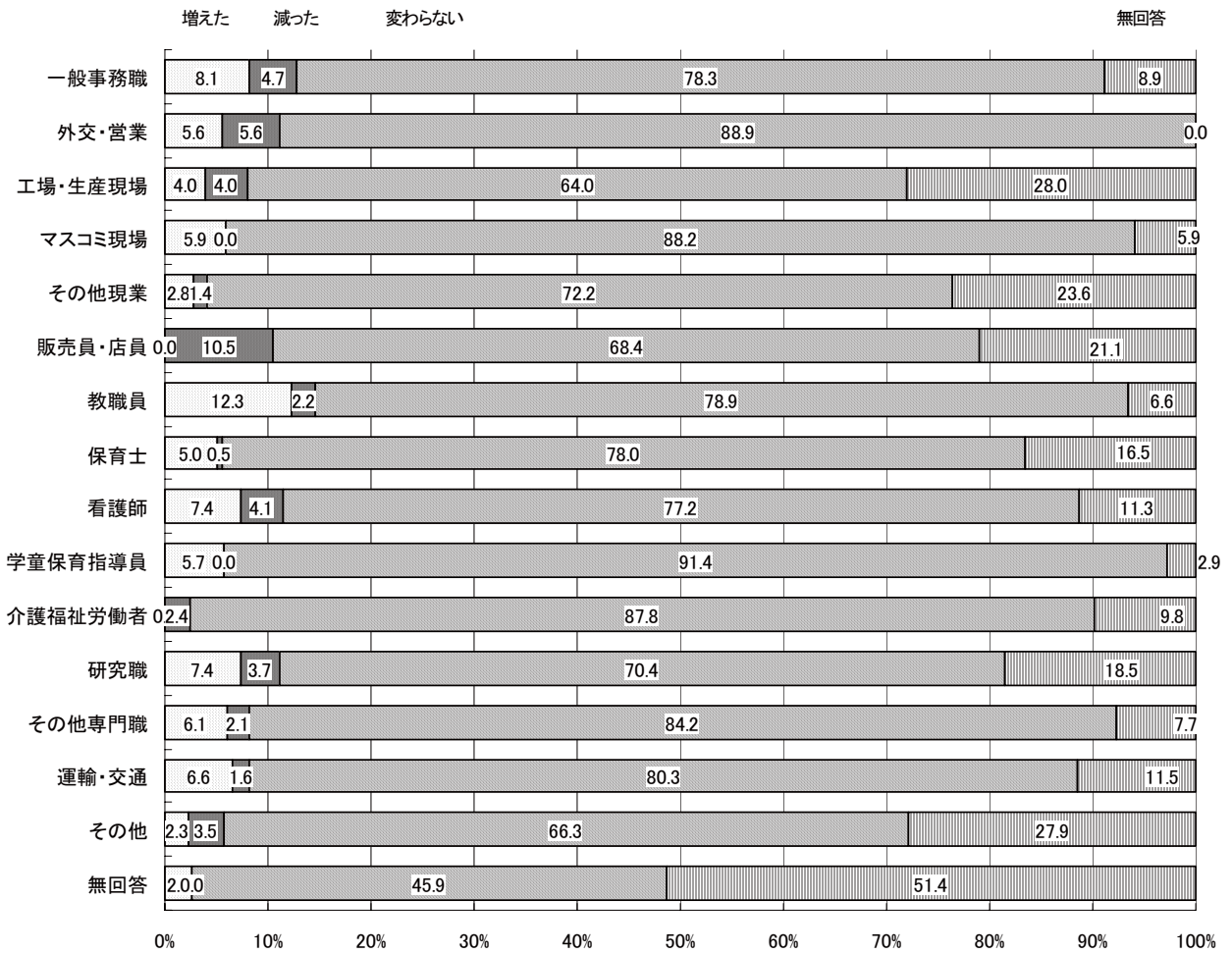


▲ 図21-2 「女子保護」規定廃止による時間外労働の変化（職種別）▲

全体では、「増えた」13.3%、「減った」4.9%であった。02年調査は、「増えた」8.4%、「減った」1.7%であった。職種別では、「増えた」が20%を超えているのは、学童保育指導員22.9%、保育士20.5%だった。02年調査と比較して、一般事務7.5%から15.0%、保育士は14.2%から20.5%、教職員9.8%から18.3%、運輸・交通は3.8%から13.1%と時間外労働が増えている。「減った」が多かったのは販売員・店員15.8%だった。

〈B 休日労働〉

◆職種別

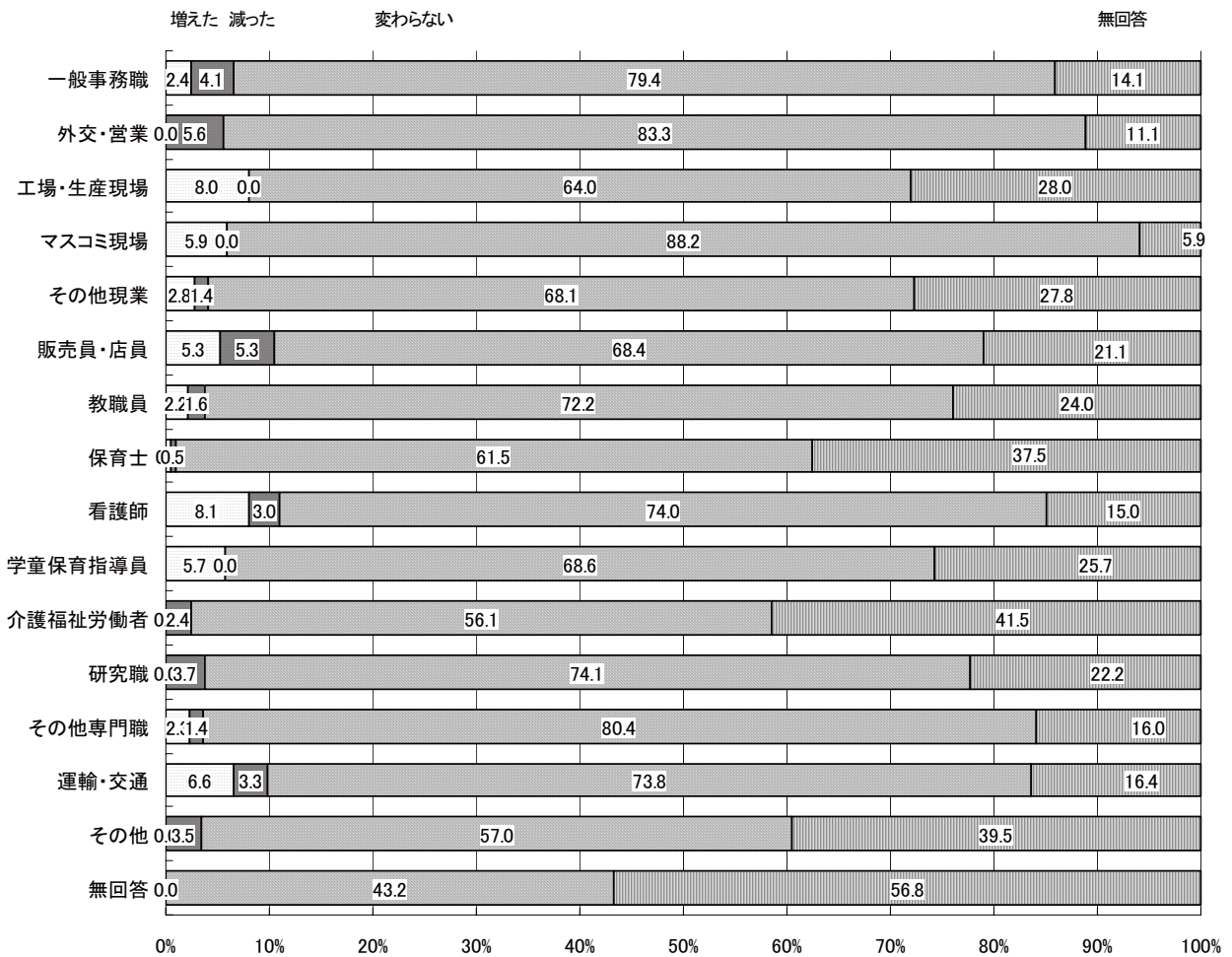


▲ 図21-3 「女子保護」規定廃止による休日労働の変化（職種別）▲

全体では、「増えた」7.1%、「減った」3.2%であった。02年調査は、「増えた」4.3%、「減った」1.4%であった。職種別では、10%を超えているのは、教職員12.3%で、02年調査と比べても3倍近くになっている。02年調査との比較では、運輸・交通は0から今回6.6%と大幅に増加し、外交・営業は1.5%から今回は5.6%となり、休日労働が増えている。一般事務職、保育士、看護師、研究職が02年調査と比べて休日労働が増えている。

〈C 深夜労働〉

◆職種別



▲ 図21-4 「女子保護」規定廃止による深夜労働の変化（職種別）▲

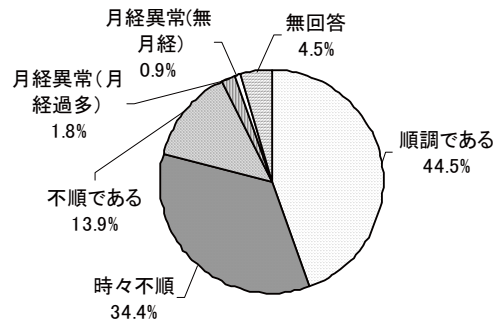
全体では、「増えた」2.9%、「減った」2.6であった。02年調査は、「増えた」2.3%、「減った」1.0%であった。職種別では、「増えた」は看護師8.1%、工場・生産現場8.0%でやや多かった。運輸・交通は02年調査の0から6.6%へと大幅に増加している。

22. 月経の周期はどうか

◆全体

	順調である	時々不順	不順である	月経異常 (月経過多)	月経異常 (無月経)	閉経	無回答	計
全体	1554 (37.4)	1202 (28.9)	486 (11.7)	64 (1.5)	30 (0.7)	661 (15.9)	158 (3.8)	4155 (100.0)
閉経を除く	1554 (44.5)	1202 (34.4)	486 (13.9)	64 (1.8)	30 (0.9)		158 (4.5)	3494 (100.0)

閉経を除いた割合で見ると、「順調」44.5%、「時々不順」34.4%、「不順」13.9%となっている。半数以上は不順・異常を訴えている。年齢別では、45歳以上は「順調である」の割合が少なくなっている。30歳未満で「月経異常（無月経）」が6人いた。35歳から39歳で「閉経」が4人いた。



▲ 図22-1 月経の周期(閉経を除いた割合) ▲

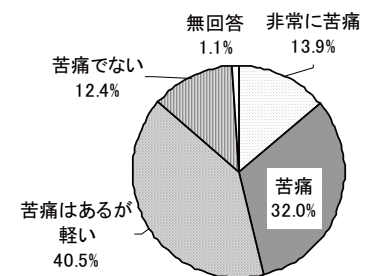
◆年齢別

	順調である	時々不順	不順である	月経異常(月経過多)	月経異常(無月経)	閉経	無回答	計
15～19歳	5 (45.5)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (18.2)	11 (100.0)
20～24歳	102 (42.9)	89 (37.4)	45 (18.9)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	1 (0.4)	238 (100.0)
25～29歳	304 (49.3)	212 (34.4)	89 (14.4)	2 (0.3)	5 (0.8)	0 (0.0)	5 (0.8)	617 (100.0)
30～34歳	383 (50.6)	264 (34.9)	92 (12.2)	9 (1.2)	6 (0.8)	0 (0.0)	3 (0.4)	757 (100.0)
35～39歳	335 (50.5)	242 (36.4)	59 (8.9)	12 (1.8)	5 (0.8)	4 (0.6)	7 (1.1)	664 (100.0)
40～44歳	241 (50.4)	162 (33.9)	44 (9.2)	20 (4.2)	3 (0.6)	3 (0.6)	5 (1.0)	478 (100.0)
45～49歳	147 (30.9)	154 (32.4)	86 (18.1)	18 (3.8)	2 (0.4)	55 (11.6)	13 (2.7)	475 (100.0)
50～59歳	33 (3.9)	77 (9.0)	69 (8.1)	3 (0.4)	8 (0.9)	567 (66.5)	96 (11.3)	853 (100.0)
60～64歳	2 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (68.9)	12 (26.7)	45 (100.0)
65歳以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
無回答	2 (13.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	12 (80.0)	15 (100.0)

23. 月経の苦痛の程度はどうか

◆全体

非常に苦痛	苦痛	苦痛はあるが軽い	苦痛でない	無回答	計
461 (13.9)	1059 (32.0)	1340 (40.5)	409 (12.4)	37 (1.1)	3306 (100.0)



▲ 図23 月経の苦痛の程度(全体) ▲

全体では、「非常に苦痛」13.9%、「苦痛」32.0%、を合わせると45.9%の人が苦痛を感じている。02年調査の、「非常に苦痛(14.0%)」、「苦痛(30.0%)」、から微増した。年齢別では、20～44歳までは、ほぼ同じ傾向となっている。45歳以上では「苦痛でない」が2割を超えている。

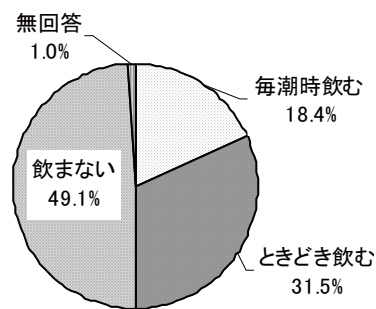
◆年齢別

	非常に苦痛	苦痛	苦痛はあるが軽い	苦痛でない	無回答	計
15～19歳	0 (0.0)	3 (33.3)	4 (44.4)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
20～24歳	38 (16.1)	82 (34.7)	87 (36.9)	28 (11.9)	1 (0.4)	236 (100.0)
25～29歳	109 (18.0)	215 (35.4)	215 (35.4)	61 (10.0)	7 (1.2)	607 (100.0)
30～34歳	126 (16.8)	274 (36.6)	289 (38.6)	54 (7.2)	5 (0.7)	748 (100.0)
35～39歳	78 (12.0)	215 (33.2)	275 (42.4)	71 (11.0)	9 (1.4)	648 (100.0)
40～44歳	63 (13.5)	142 (30.4)	197 (42.2)	62 (13.3)	3 (0.6)	467 (100.0)
45～49歳	38 (9.4)	93 (23.0)	180 (44.4)	88 (21.7)	6 (1.5)	405 (100.0)
50～59歳	7 (3.8)	35 (19.2)	93 (51.1)	43 (23.6)	4 (2.2)	182 (100.0)
60～64歳	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
無回答	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)

24. 月経時に鎮痛剤を使用していますか

◆全体

毎潮時飲む	ときどき飲む	飲まない	無回答	計
609 (18.4)	1040 (31.5)	1623 (49.1)	34 (1.0)	3306 (100.0)

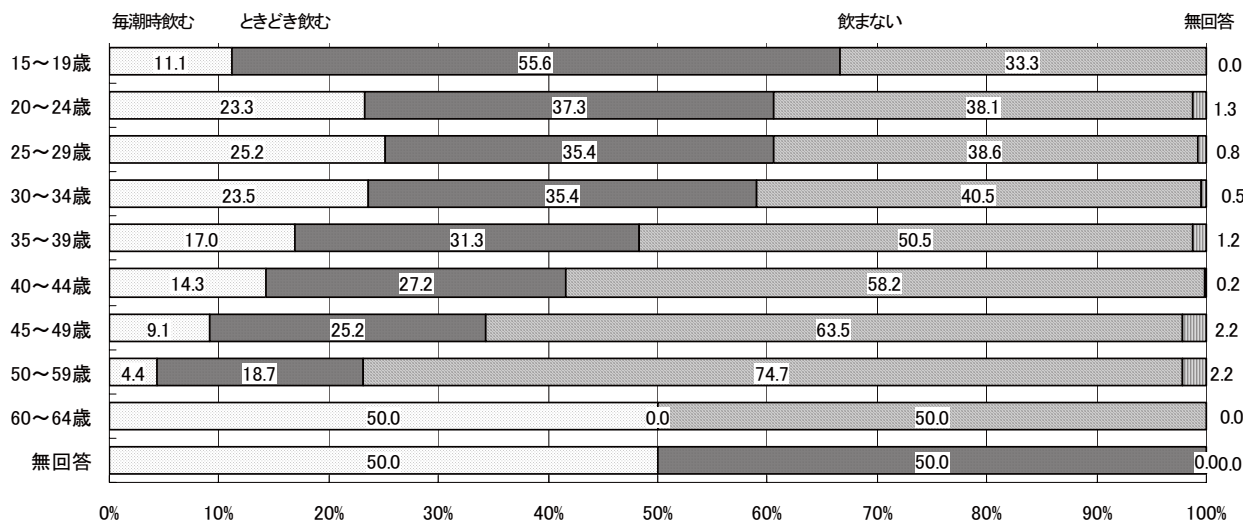


▲ 図24-1 月経時の鎮痛剤の使用頻度(全体) ▲

全体では、「ときどき飲む (31.5%)」、「毎潮時飲む (18.4%)」を合わせると 49.9%が鎮痛剤を服用している。月経の苦痛の状況とほぼ近い数値となっている。02年調査では、「ときどき飲む (29.0%)」、「毎潮時飲む (16.8%)」を合わせると 45.8%であり、鎮痛剤服用の割合が4ポイント増加している。

年齢別では、若年層ほど「毎潮時飲む」「ときどき飲む」の合計が多い傾向がある。34歳以下の過半数が薬に頼っている。

◆年齢別

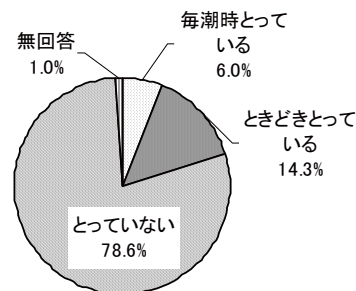


▲ 図24-2 月経時の鎮痛剤の使用頻度(年齢別) ▲

25. 生理休暇をとっていますか

◆全体

毎潮時 とっている	ときどき とっている	とっていない	無回答	計
199 (6.0)	474 (14.3)	2599 (78.6)	34 (1.0)	3306 (100.0)

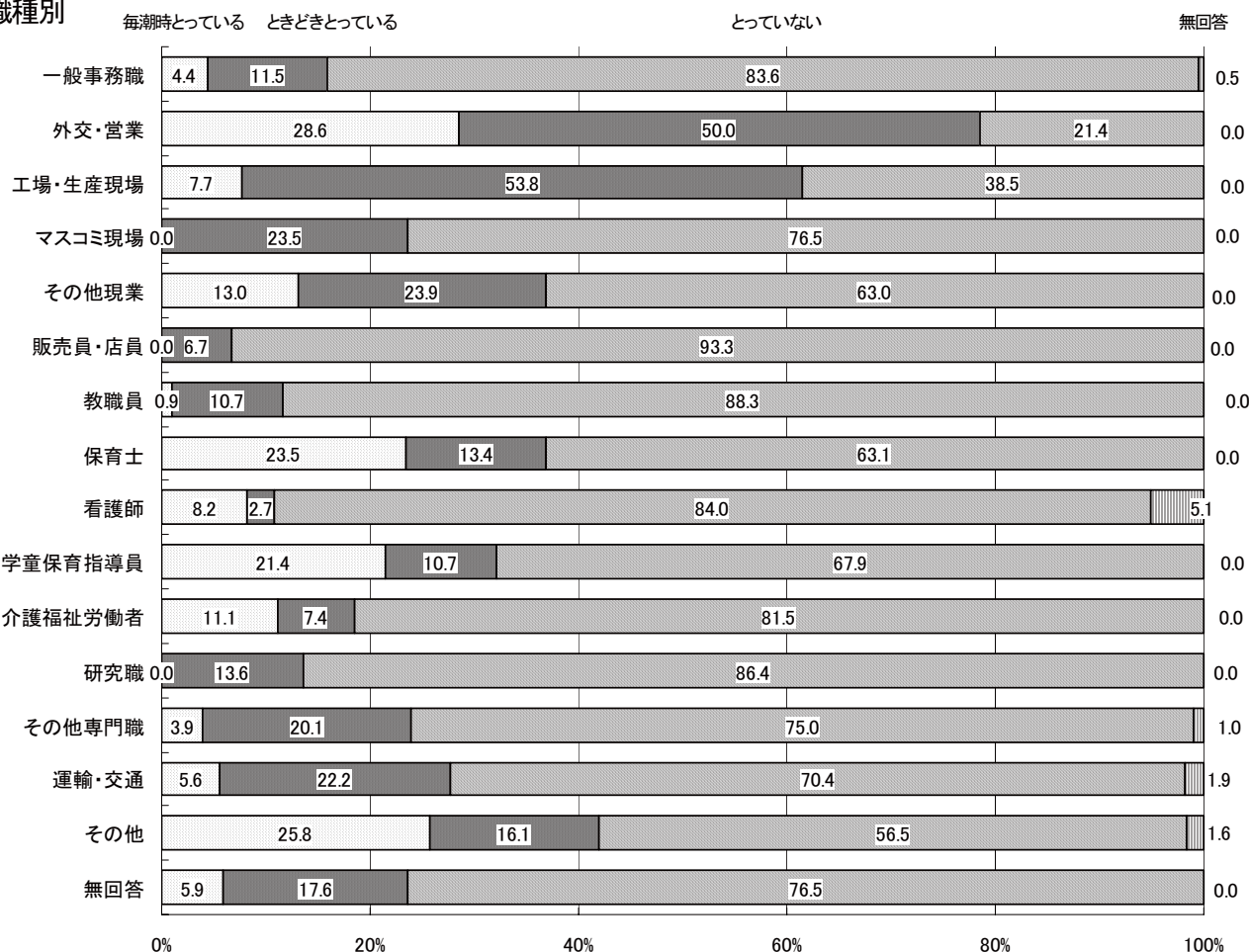


▲ 図25-1 生理休暇の取得状況(全体) ▲

全体では、「毎潮時とっている」は6.0%のみで、「とっていない」が最も多く78.6%だった。「毎潮時とっている」「時々とっている」を合わせた数値は02年調査の25.3%から20.3%へとさらに減少し、その分「とっていない」が増加した。

職種別では、「とっていない」が多かったのは、販売員・店員93.3%、教職員88.3%となった。02年調査と比較すると、教職員は微減(90.8%→88.3%)だが、販売店・店員は前回の74.4%から大きく悪化している。一般事務職は72.4%から83.6%、運輸・交通で64.0%から70.4%と「とっていない」が増加している。「毎潮時とっている」「時々とっている」が増えたのは、外交・営業で51.0%から78.6%、工場生産現場で33.3%から61.5%、保育士14.6%から36.9%ある。

◆職種別

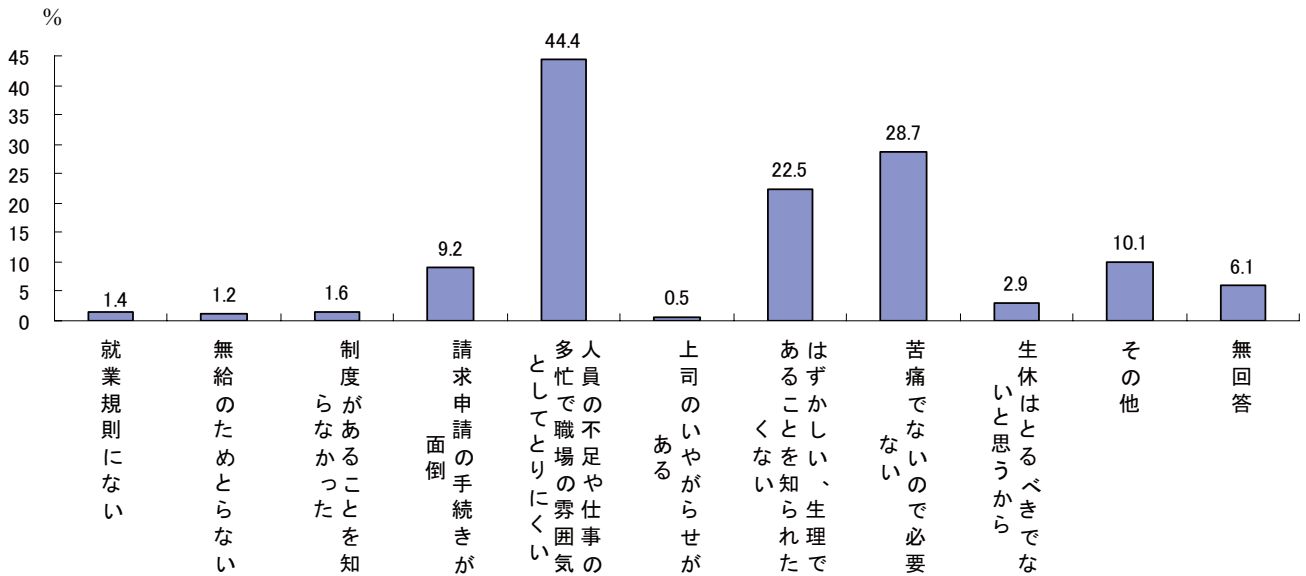


▲ 図25-2 生理休暇の取得状況(職種別) ▲

26.生理休暇がとれない(とらない)理由(前問で②と③と回答した人2つ以内選択)

◆全体

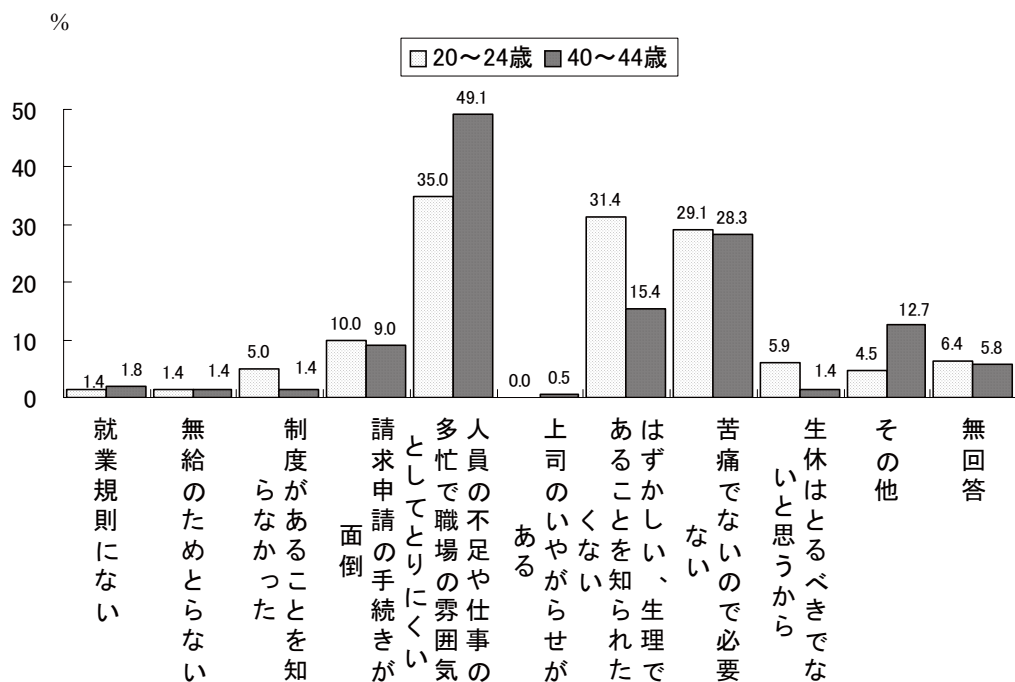
就業規則がない	無給のためとらない	制度があることを知らなかった	請求申請の手続きが面倒	人員の不足や仕事の多忙で職場の雰囲気としてとりにくい	上司のいやがらせがある	はずかしい、生理であることを知られたくない	苦痛でないので必要ない	生休はとるべきでないと思うから	その他	無回答	計
43 (1.4)	38 (1.2)	50 (1.6)	282 (9.2)	1363 (44.4)	14 (0.5)	690 (22.5)	881 (28.7)	89 (2.9)	310 (10.1)	187 (6.1)	3073 (100.0)



▲ 図26-1 生理休暇がとれない理由(全体) ▲

全体では、「人員不足・多忙でとりにくい」が44.4%と最も多く、次いで「苦痛ではないので必要ない」28.7%、「はずかしい、生理であることを知られたくない」22.5%、「請求手続きが面倒」が9.2%だった。いまだ「就業規則がない」「制度があることを知らなかった」「上司の嫌がらせ」が解消できていないことが問題である。02年調査と傾向はほぼ同じであるが、「知られたくない」(18.6%から22.5%)「とるべきでない」(2.1%から2.9%)と増えており、母性保護の取り組みの強化が必要である。

年齢別では、20歳代前半と40歳代前半を比べると、「人員不足・多忙でとりにくい」が40歳代前半は49.1%だが20歳代前半は35.0%、「はずかしい、生理であることを知られたくない」が40歳代前半は15.4%だが、20歳代前半は31.4%となった。20歳代前半は「制度があることを知らなかった」が5.0%となっている。よりていねいに制度を周知徹底させることが重要である。



▲ 図26-2 生理休暇がとれない理由(20歳代前半と40歳代前半)▲

27.自分の職場で女性に対する差別はありますか

◆全体

	差別がある	差別はない	わからない	無回答	計
A 募集・採用	595 (14.3)	1748 (42.1)	1631 (39.3)	181 (4.4)	4155 (100.0)
B 配置	1096 (26.4)	1391 (33.5)	1501 (36.1)	167 (4.0)	4155 (100.0)
C 昇進・昇任	1125 (27.1)	1205 (29.0)	1660 (40.0)	165 (4.0)	4155 (100.0)
D 教育訓練	544 (13.1)	2096 (50.4)	1336 (32.2)	179 (4.3)	4155 (100.0)
E 福利厚生	262 (6.3)	2622 (63.1)	1093 (26.3)	178 (4.3)	4155 (100.0)
F 定年・退職	327 (7.9)	2332 (56.1)	1321 (31.8)	175 (4.2)	4155 (100.0)
G 賃金	727 (17.5)	2039 (49.1)	1217 (29.3)	172 (4.1)	4155 (100.0)
	ある	ない	わからない	無回答	計
H セクシュアル・ハラスメント	976 (23.5)	1512 (36.4)	1505 (36.2)	162 (3.9)	4155 (100.0)
	行われている	行われていない	わからない	無回答	計
I ポジティブ・アクション	238 (5.7)	670 (16.1)	2945 (70.9)	302 (7.3)	4155 (100.0)

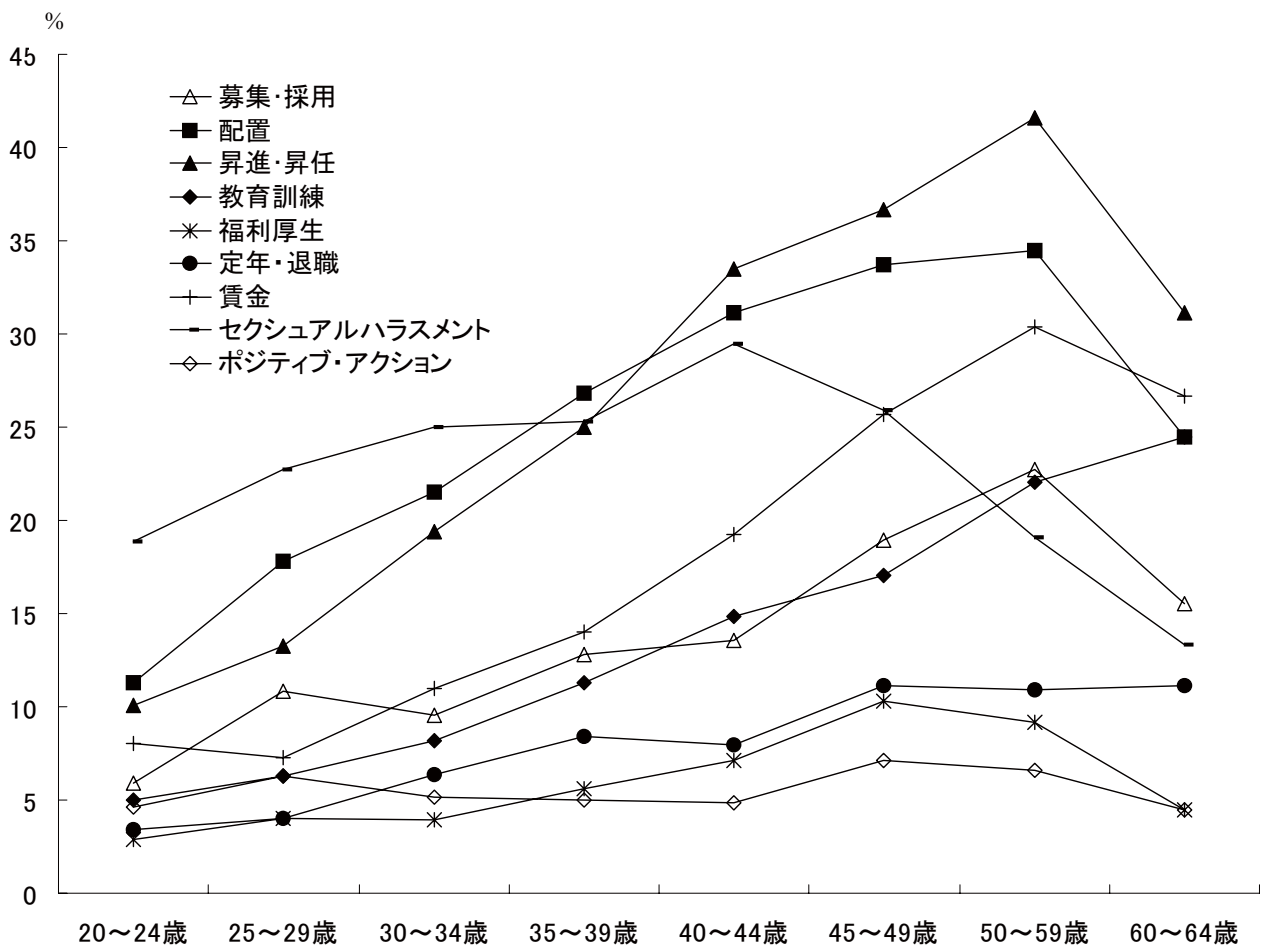
全体では、A～Gについてみると、「差別がある」が多かったのは、C 昇進・昇任 27.1%、B 配置 26.4%、賃金 17.5%だった。「差別がない」が最も多かったのは、E 福利厚生 63.1%、次いで F 定年・退職 56.1%だった。「わからない」がもっとも多かったのは C 昇進・昇任 40.0%、A 募集・採用 39.3%だった。

H セクシュアル・ハラスメントは、「ある」は 23.5%と 2 割を超えている。I ポジティブ・アクションは「行われている」は 5.7%のみで、「わからない」が 70.9%と多数を占めた。

◆年齢別

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～59歳	60～64歳
A 募集・採用	5.9	10.9	9.5	12.8	13.6	18.9	22.7	15.6
B 配置	11.3	17.8	21.5	26.8	31.2	33.7	34.5	24.4
C 昇進・昇任	10.1	13.3	19.4	25.0	33.5	36.6	41.6	31.1
D 教育訓練	5.0	6.3	8.2	11.3	14.9	17.1	22.0	24.4
E 福利厚生	2.9	4.1	4.0	5.6	7.1	10.3	9.1	4.4
F 定年・退職	3.4	4.1	6.3	8.4	7.9	11.2	10.9	11.1
G 賃金	8.0	7.3	11.0	14.0	19.2	25.7	30.4	26.7
H セクシュアル・ハラスメント	18.9	22.7	25.0	25.3	29.5	25.9	19.1	13.3
I ポジティブ・アクション	4.6	6.3	5.2	5.0	4.8	7.2	6.6	4.4

注) A～G は「差別がある」の割合、H は「セクシュアルハラスメントがある」の割合、I は「ポジティブ・アクションが行われている」の割合。単位%。



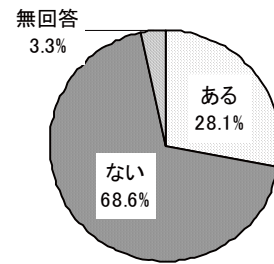
▲ 図27 年齢別に見た職場での女性差別の割合 ▲

年齢別では、年齢が高いほど差別感が高いことがうかがわれる。B 配置、C 昇進・昇任は年齢が上がるにしたがって「差別がある」と感じている割合が高くなる。G 賃金も 40 歳以上で「差別がある」と感じている割合が高くなっている。これは、管理職における女性の割合が低いことから賃金格差は広がっていることがわかる。「セクシュアルハラスメント」は、すべての年代で高く、「ポジティブアクションが行われている」の割合は、各年代を通じてさほど差がなく全体的に低い割合にとどまっている。

28—①.自分がセクハラを受けたことがありますか

◆全体

ある	ない	無回答	計
1168 (28.1)	2850 (68.6)	137 (3.3)	4155 (100.0)



全体では「ある」は28.1%で、約3割がセクハラを受けている。

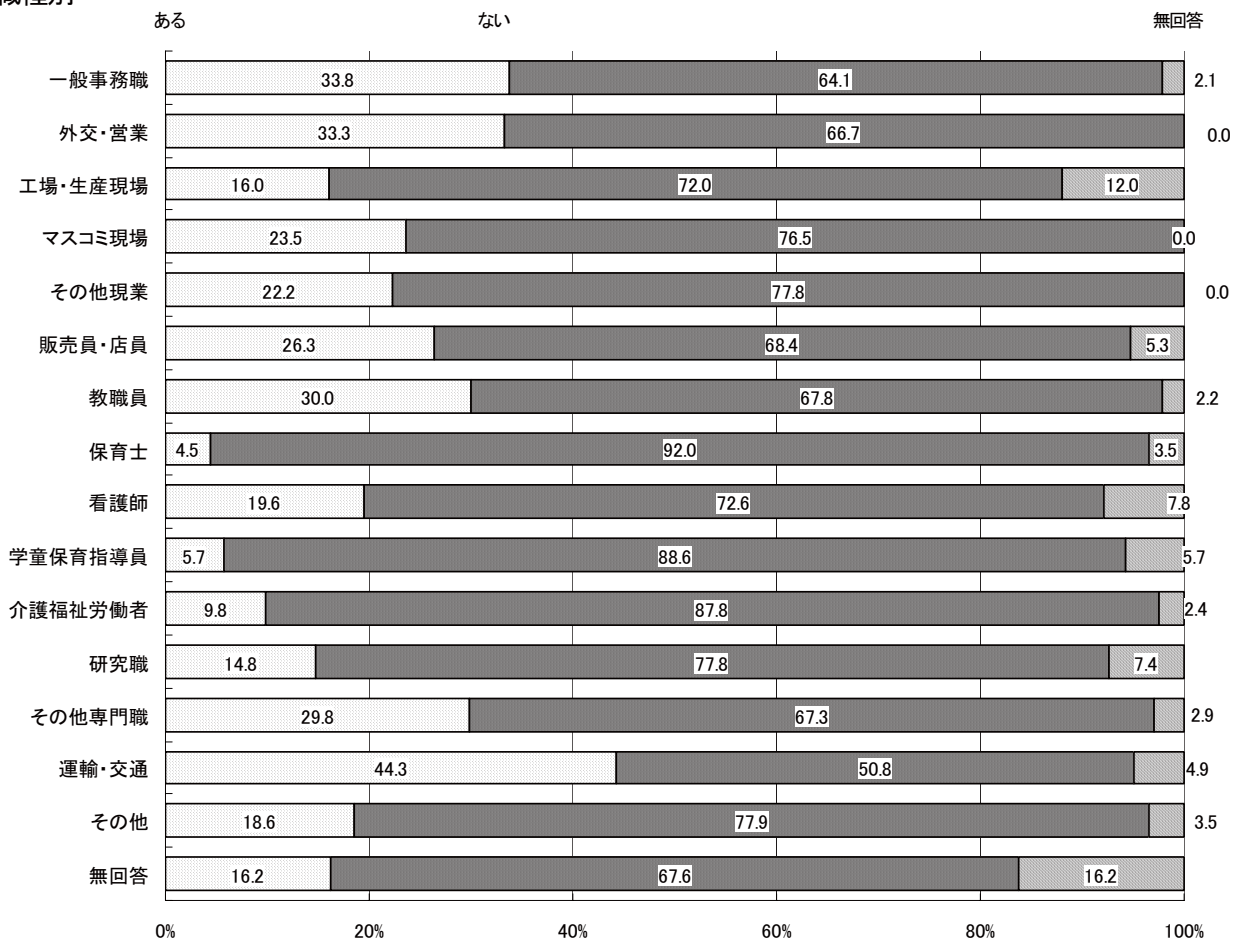
職種別では、「ある」が最も多かったのは運輸・交通44.3%、次いで一般事務職33.8%、外交・営業33.3%だった。

▲ 図28-1 職場でのセクハラの有無(全体) ▲

「ある」が最も少なかったのは保育士4.5%、次いで学童保育指導員5.7%、介護福祉労働者9.8%だった。

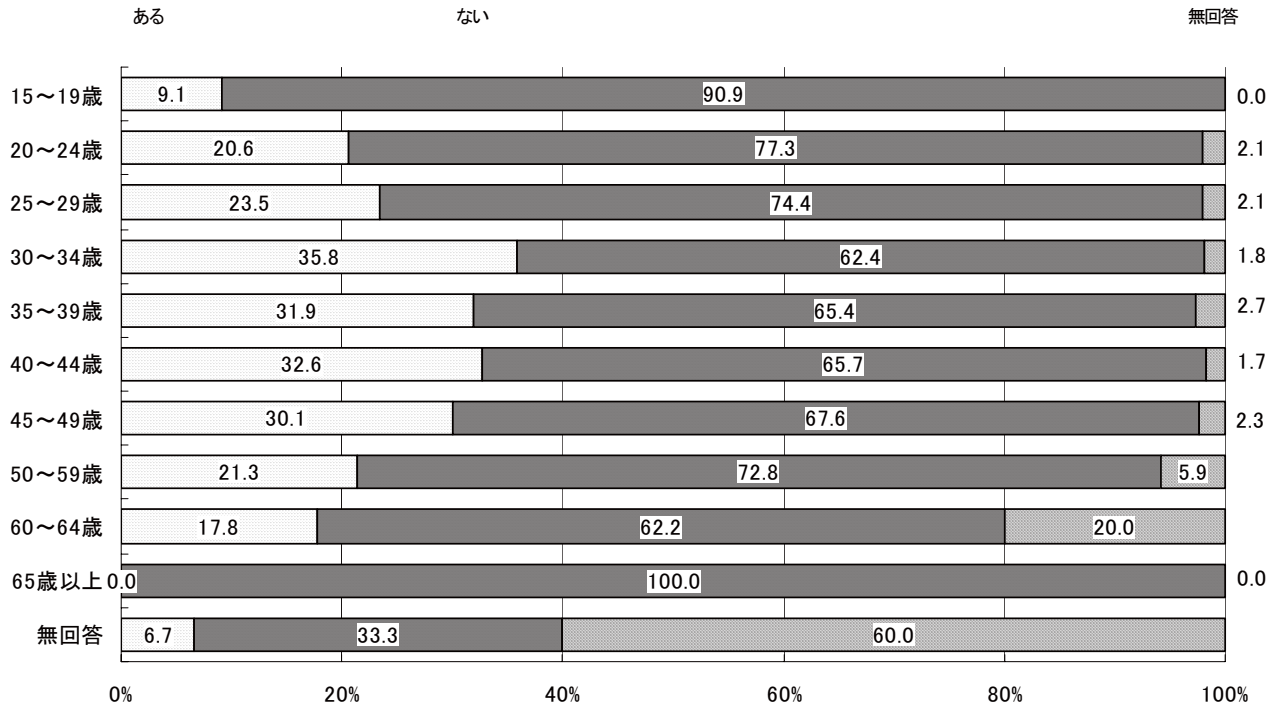
年齢別では、「ある」が最も多かったのは、30～34歳35.8%となった。35～39歳、40～44歳、45～49歳はいずれも「ある」が30%を超えている。

◆職種別



▲ 図28-2 職場でのセクハラの有無(職種別) ▲

◆年齢別

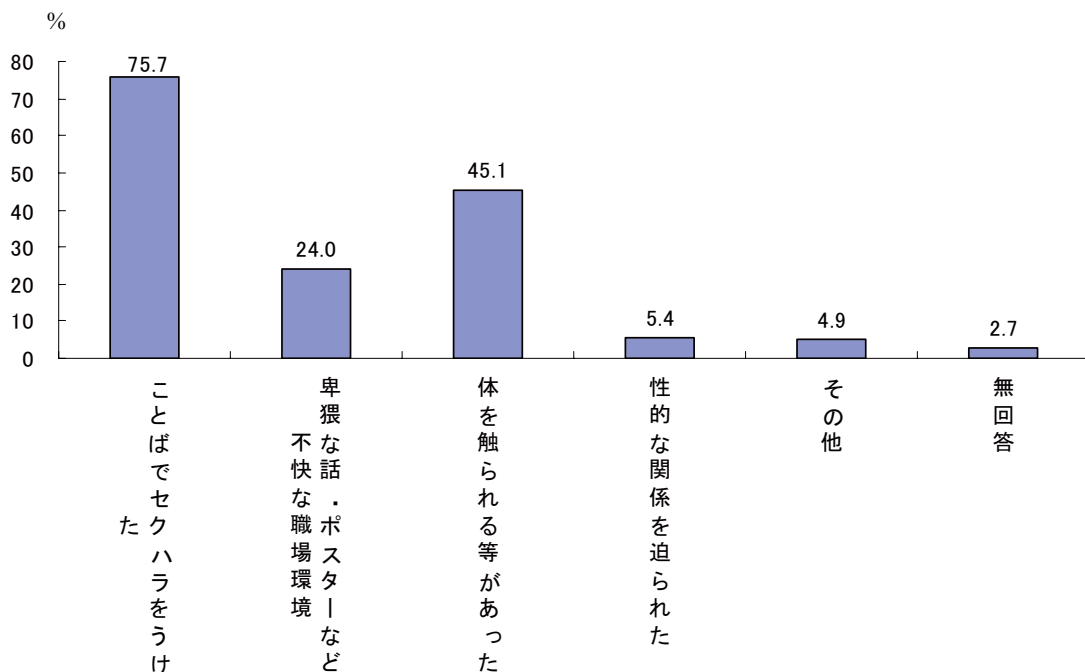


▲ 図28-3 職場でのセクハラの有無(年齢別) ▲

28—②どのようなセクハラを受けましたか(複数回答)

◆全体

ことばでセクハラを受けた	卑猥な話・ポスターなど不快な職場環境	体を触られる等があった	性的な関係を迫られた	その他	無回答	計
884 (75.7)	280 (24.0)	527 (45.1)	63 (5.4)	57 (4.9)	31 (2.7)	1168 (100.0)



▲ 図28-4 職場でうけたセクハラの種類(全体—複数回答) ▲

全体では、「ことばでセクハラをうけた」が最も多く75.7%、次いで「身体を触れられる等があった」45.1%、「卑猥な話・ポスターなど不快な職場環境」24.0%となった。「性的な関係を迫られた」人が63人もいた。

職種別で見ると、「ことばでセクハラをうけた」が多かったのは教職員84.2%、看護師81.2%、「卑猥な話・ポスターなど不快な職場環境」が多かったのは、運輸・交通37.0%、「体をさわられる等」が多かったのは、一般事務職48.7%、運輸・交通48.1%、「性的な関係を迫られた」が多かったのは運輸・交通11.1%だった。

◆職種別

	ことばでセクハラをうけた	卑猥な話・ポスターなど不快な職場環境	体を触られる等があった	性的な関係を迫られた	その他	無回答	計
一般事務職	380 (74.4)	135 (26.4)	249 (48.7)	32 (6.3)	25 (4.9)	10 (2.0)	511 (100.0)
外交・営業	6 (100.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
工場・生産現場	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
マスコミ現場	3 (75.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
その他現業	12 (75.0)	2 (12.5)	4 (25.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	2 (12.5)	16 (100.0)
販売員・店員	4 (80.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
教職員	80 (84.2)	24 (25.3)	37 (38.9)	3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.2)	95 (100.0)
保育士	5 (55.6)	1 (11.1)	2 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	9 (100.0)
看護師	69 (81.2)	7 (8.2)	38 (44.7)	4 (4.7)	2 (2.4)	2 (2.4)	85 (100.0)
学童保育指導員	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
介護福祉労働者	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
研究職	4 (100.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
その他専門職	281 (75.1)	89 (23.8)	165 (44.1)	21 (5.6)	19 (5.1)	11 (2.9)	374 (100.0)
運輸・交通	20 (74.1)	10 (37.0)	13 (48.1)	3 (11.1)	2 (7.4)	0 (0.0)	27 (100.0)
その他	10 (62.5)	6 (37.5)	6 (37.5)	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
無回答	4 (66.7)	0 (0.0)	4 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)

◆年齢別

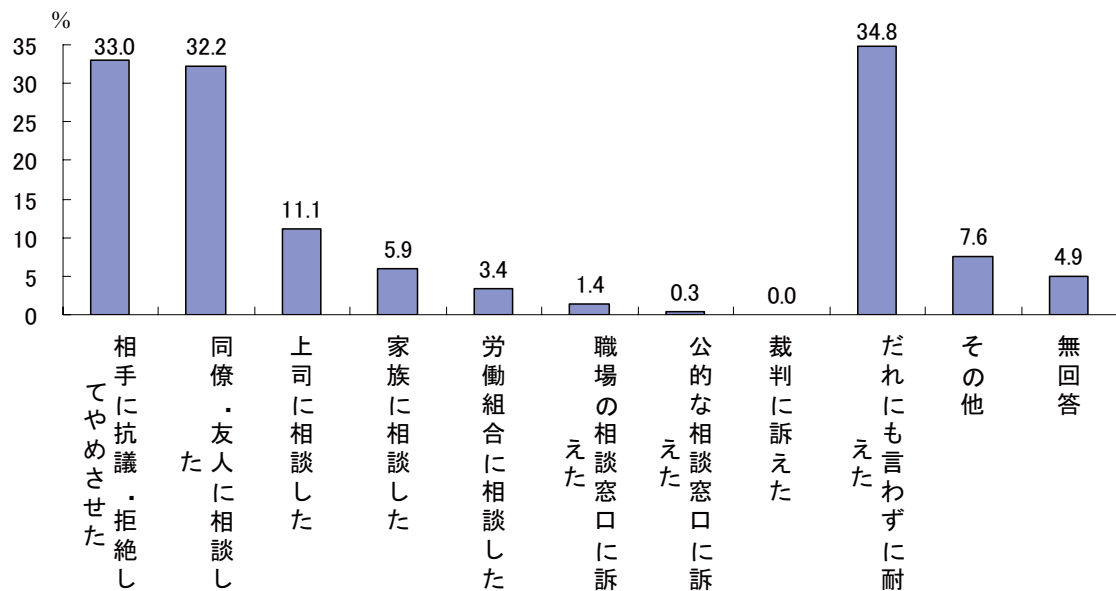
	ことばでセクハラをうけた	卑猥な話・ポスターなど不快な職場環境	体を触られる等があった	性的な関係を迫られた	その他	無回答	計
15～19歳	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
20～24歳	39 (79.6)	5 (10.2)	15 (30.6)	0 (0.0)	3 (6.1)	2 (4.1)	49 (100.0)

25～29歳	100 (69.0)	33 (22.8)	68 (46.9)	4 (2.8)	9 (6.2)	4 (2.8)	145 (100.0)
30～34歳	216 (79.7)	49 (18.1)	123 (45.4)	20 (7.4)	9 (3.3)	3 (1.1)	271 (100.0)
35～39歳	161 (75.9)	54 (25.5)	101 (47.6)	10 (4.7)	13 (6.1)	3 (1.4)	212 (100.0)
40～44歳	118 (75.6)	43 (27.6)	85 (54.5)	13 (8.3)	9 (5.8)	1 (0.6)	156 (100.0)
45～49歳	111 (77.6)	42 (29.4)	63 (44.1)	6 (4.2)	7 (4.9)	5 (3.5)	143 (100.0)
50～59歳	132 (72.5)	52 (28.6)	69 (37.9)	9 (4.9)	3 (1.6)	13 (7.1)	182 (100.0)
60～64歳	6 (75.0)	2 (25.0)	2 (25.0)	1 (12.5)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
無回答	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

28-③.セクハラを受けた場合、どのように対処しましたか(3つ以内回答)

◆全体

相手に抗議・拒絶してやめさせた	同僚・友人に相談した	上司に相談した	家族に相談した	労働組合に相談した	職場の相談窓口へ訴えた	公的な相談窓口へ訴えた	裁判に訴えた	だれにも言わずに耐えた	その他	無回答	計
385 (33.0)	376 (32.2)	130 (11.1)	69 (5.9)	40 (3.4)	16 (1.4)	4 (0.3)	0 (0.0)	406 (34.8)	89 (7.6)	57 (4.9)	1168 (100.0)



▲ 図28-5 セクハラへの対処(全体—3つ以内回答) ▲

全体では「だれにも言わずに耐えた」が最も多く 34.8%、次いで「相手に抗議・拒絶してやめさせた」33.0%、「同僚・友人に相談した」32.2%となった。労働組合や相談機関への相談はいずれも5%未満に止まった。

29—①.職場でパワハラを受けたことがありますか

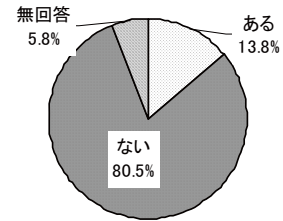
◆全体

	ない	無回答	計
	573 (13.8)	3343 (80.5)	4155 (100.0)

全体では、職場でのパワーハラスメントについて「ある」13.8%、「ない」80.5%となった。

職種別では、「ある」が最も多かったのは販売員・店員36.8%、外交・営業33.3%などとなった。

年齢別では「ある」は40～44歳18.8%、50～59歳で16.9%とやや多かった。



▲ 図29-1 職場でのパワハラの有無(全体) ▲

29—②.どのようなパワハラを受けましたか(複数回答)

◆全体

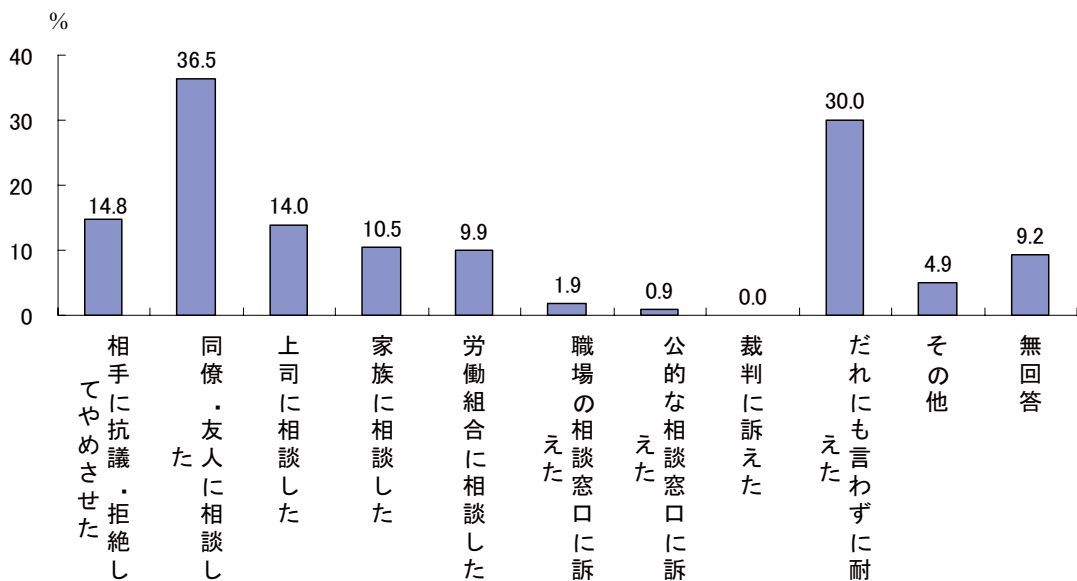
ことばでパワハラをうけた	卑猥な話・ポスターなど不快な職場環境	体を触られる等があった	性的な関係を迫られた	その他	無回答	計
487 (85.0)	26 (4.5)	29 (5.1)	11 (1.9)	62 (10.8)	32 (5.6)	573 (100.0)

全体では、「ことばでパワハラをうけた」が最も多く85.0%、次いで「その他」が10.8%となった。

29—③.パワハラを受けた場合どのように対処しましたか(3つ以内回答)

◆全体

相手に抗議・拒絶してやめさせた	同僚・友人に相談した	上司に相談した	家族に相談した	労働組合に相談した	職場の相談窓口へ訴えた	公的な相談窓口へ訴えた	裁判に訴えた	だれにも言わずに耐えた	その他	無回答	計
85 (14.8)	209 (36.5)	80 (14.0)	60 (10.5)	57 (9.9)	11 (1.9)	5 (0.9)	0 (0.0)	172 (30.0)	28 (4.9)	53 (9.2)	573 (100.0)



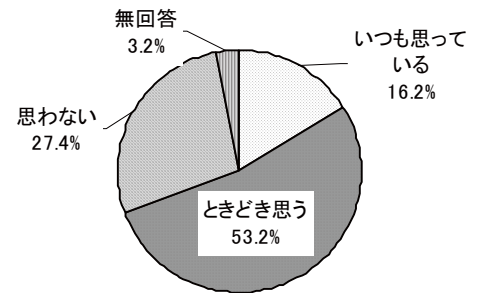
▲ 図29-2 パワハラへの対処(全体—3つ以内回答) ▲

全体では「同僚・友人に相談した」が最も多く 36.5%、次いで「だれにも言わずに耐えた」30.0%となった。労働組合への相談は9.9%だった。相談機関への相談はいずれも2%未満に止まった。

30.仕事をやめたいと思うことはありますか

◆全体

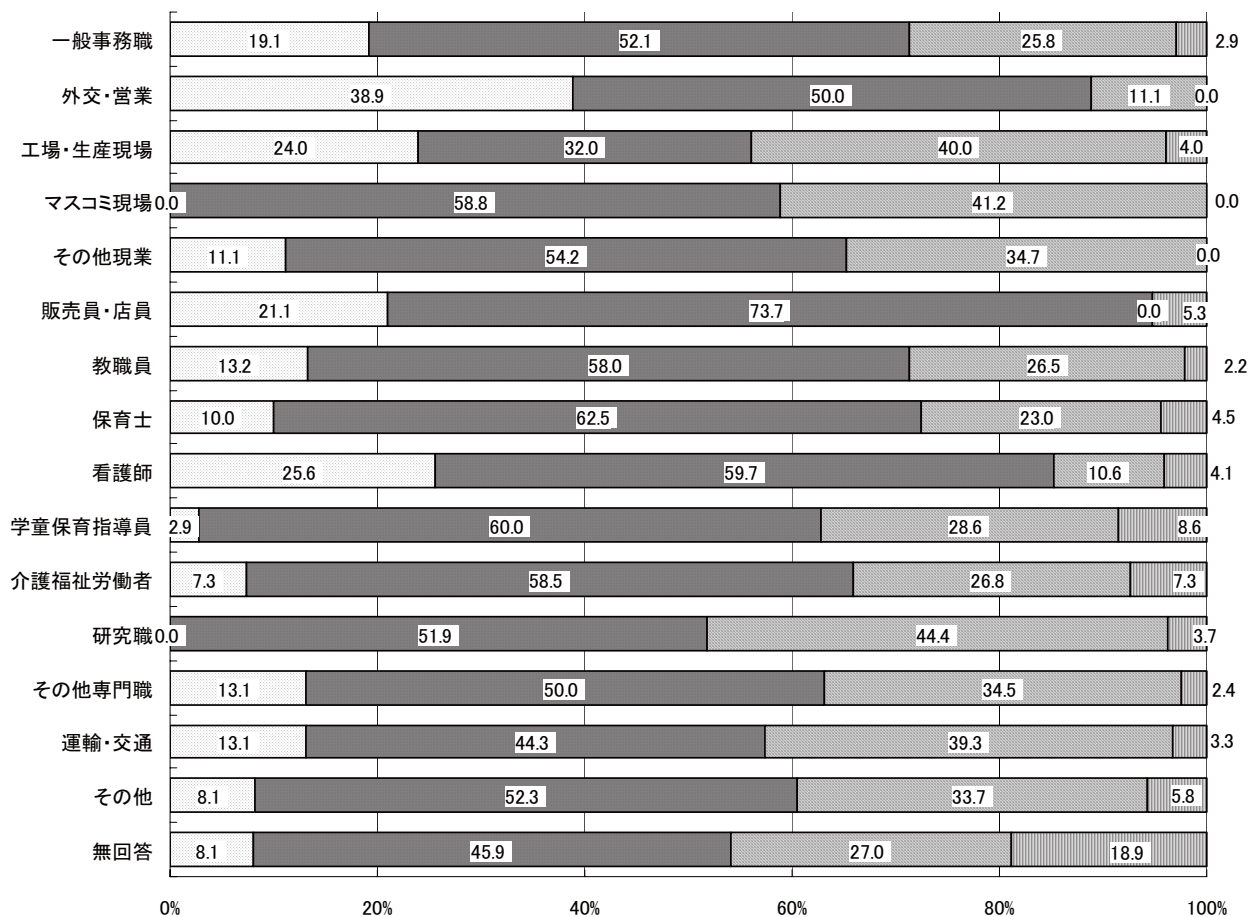
いつも思っている	ときどき思う	思わない	無回答	計
673 (16.2)	2212 (53.2)	1139 (27.4)	131 (3.2)	4155 (100.0)



全体では、「いつも思っている」と「ときどき思う」を合わせて約7割が仕事をやめたいと思うことがあると回答しており、「思わない」は27.4%だった。

▲ 図30-1 仕事をやめたいと思うこと(全体) ▲

◆職種別



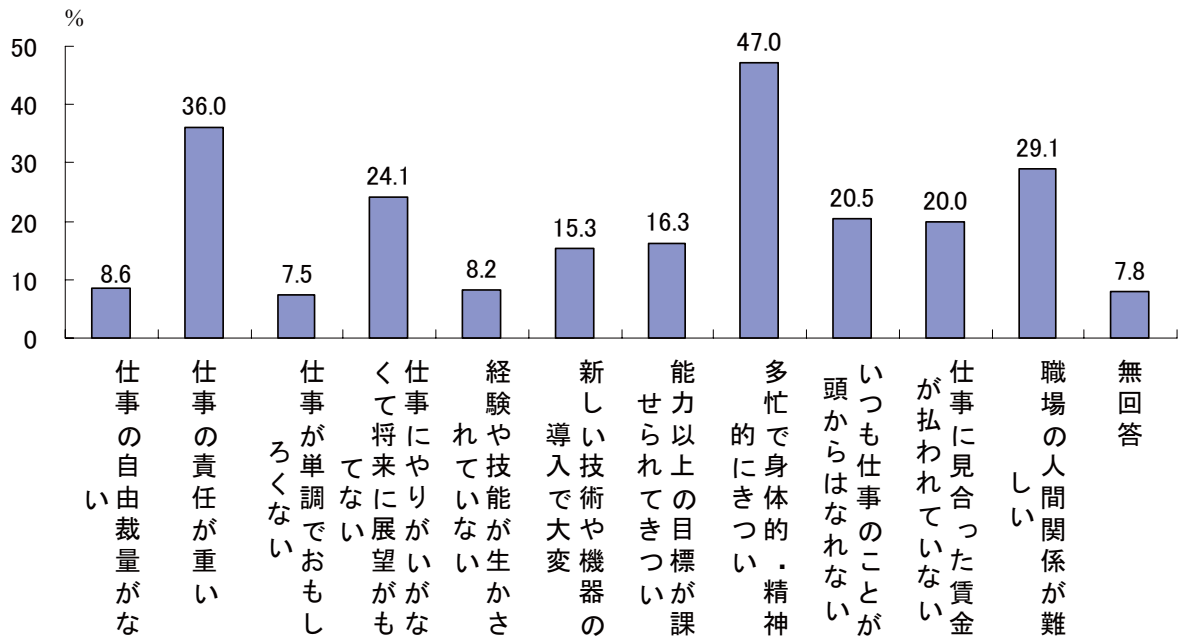
▲ 図30-2 仕事をやめたいと思うこと(職種別) ▲

職種別では、「いつも思っている」と「ときどき思っている」の合計が最も多かったのは、販売員・店員 94.7%、外交・営業 88.9%、看護師 85.3%だった。

31.自分の仕事にどんな感じをもっていますか(複数回答)

◆全体

仕事の自由裁量がない	仕事の責任が重い	仕事が単調でおもしろくない	仕事にやりがいがないで将来に展望がもてない	経験や技能が生かされていない	新しい技術や機器の導入で大変	能力以上の目標が課せられてきつい	多忙で身体的・精神的にきつい	いつも仕事のことが頭からはなれない	仕事に見合った賃金が払われていない	職場の人間関係が難しい	無回答	計
247 (8.6)	1038 (36.0)	216 (7.5)	695 (24.1)	238 (8.2)	442 (15.3)	469 (16.3)	1357 (47.0)	591 (20.5)	577 (20.0)	839 (29.1)	226 (7.8)	2885 (100.0)



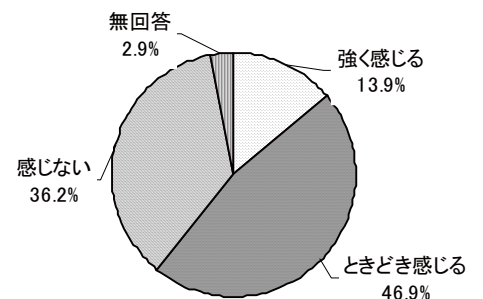
▲ 図30 自分の仕事に感じていること(全体—複数回答) ▲

全体では、最も多かったのは「多忙で身体的・精神的にきつい」47.0%、次いで「仕事の責任が重い」36.0%、「職場の人間関係が難しい」29.1%となった。

32.雇用不安を感じますか

◆全体

強く感じる	ときどき感じる	感じない	無回答	計
578 (13.9)	1949 (46.9)	1506 (36.2)	122 (2.9)	4155 (100.0)



▲ 図32 雇用不安を感じるか(全体) ▲

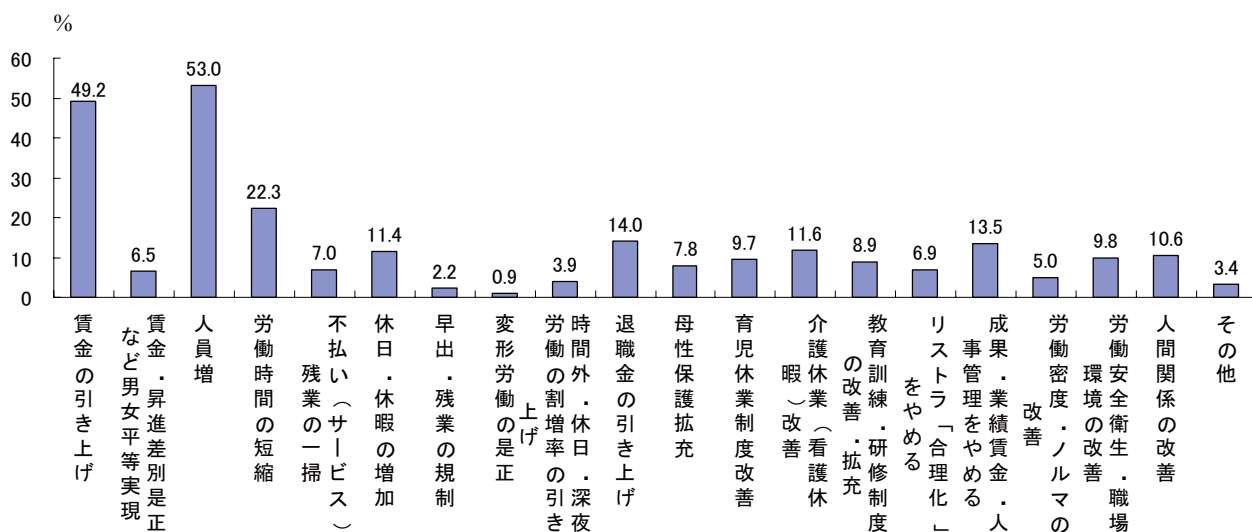
全体では、「強く感じる」13.9%、「ときどき感じる」46.9%で、6割が雇用不安を感じている。

33.職場の状況から今、もっとも切実な要求(3つ選択)

◆全体

賃金の引き上げ	賃金・昇進差別は正など男女平等実現	人員増	労働時間の短縮	不払い(サービス)残業の是正	休日・休暇の増加	早出・残業の規制	変形労働の是正	時間外・休日・深夜労働の割増率の引き上げ	退職金の引き上げ	母性保護拡充
2046 (49.2)	271 (6.5)	2201 (53.0)	927 (22.3)	292 (7.0)	474 (11.4)	91 (2.2)	36 (0.9)	162 (3.9)	583 (14.0)	325 (7.8)

育児休業制度改善	介護休業(看護休暇)改善	教育訓練・研修制度の改善・拡充	リストラ「合理化」をやめる	成果・業績賃金・人事管理をやめる	労働密度・ノルマの改善	労働安全衛生・職場環境の改善	人間関係の改善	その他	無回答	計
401 (9.7)	484 (11.6)	371 (8.9)	286 (6.9)	563 (13.5)	206 (5.0)	409 (9.8)	440 (10.6)	143 (3.4)	159 (3.8)	4155 (100.0)



▲ 図33 職場状況でもっとも切実な要求(全体—3つ選択) ▲

◆職種別

	賃金の引き上げ	賃金・昇進差別は正など男女平等実現	人員増	労働時間の短縮	不払い(サービス)残業の是正	休日・休暇の増加	早出・残業の規制	変形労働の是正	時間外・休日・深夜労働の割増率の引き上げ	退職金の引き上げ	母性保護拡充	育児休業制度改善	介護休業(看護休暇)改善	教育訓練・研修制度の改善・拡充	リストラ「合理化」をやめる	成果・業績賃金・人事管理をやめる	労働密度・ノルマの改善	労働安全衛生・職場環境の改善	人間関係の改善	その他	無回答	計
一般事務職	684 (45.2)	135 (8.9)	844 (55.8)	367 (24.3)	137 (9.1)	111 (7.3)	37 (2.4)	12 (0.8)	10 (0.7)	180 (11.9)	120 (7.9)	142 (9.4)	165 (10.9)	123 (8.1)	135 (8.9)	195 (12.9)	103 (6.8)	136 (9.0)	156 (10.3)	54 (3.6)	58 (3.8)	1513 (100.0)
外交・営業	9 (50.0)	1 (5.6)	7 (38.9)	4 (22.2)	1 (5.6)	4 (22.2)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)	3 (16.7)	1 (5.6)	0 (0.0)	4 (22.2)	1 (5.6)	2 (11.1)	3 (16.7)	0 (0.0)	3 (16.7)	1 (5.6)	1 (5.6)	18 (100.0)
工場・生産現場	21 (84.0)	0 (0.0)	7 (28.0)	5 (20.0)	0 (0.0)	8 (32.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (24.0)	0 (0.0)	3 (12.0)	1 (4.0)	4 (16.0)	1 (4.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	6 (24.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	25 (100.0)
マスコミ現場	9 (52.9)	2 (11.8)	9 (52.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	3 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	5 (29.4)	1 (5.9)	2 (11.8)	4 (23.5)	1 (5.9)	2 (11.8)	4 (23.5)	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)
その他現業	42 (58.3)	3 (4.2)	32 (44.4)	7 (9.7)	3 (4.2)	5 (6.9)	2 (2.8)	1 (1.4)	1 (1.4)	21 (29.2)	3 (4.2)	7 (9.7)	12 (16.7)	5 (6.9)	14 (19.4)	10 (13.9)	3 (4.2)	21 (29.2)	4 (5.6)	2 (2.8)	1 (1.4)	72 (100.0)

販売員・店員	7 (36.8)	3 (15.8)	6 (31.6)	5 (26.3)	3 (15.8)	3 (15.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (10.5)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (31.6)	1 (5.3)	2 (10.5)	1 (5.3)	0 (0.0)	3 (15.8)	1 (5.3)	2 (10.5)	19 (100.0)
教職員	117 (36.9)	13 (4.1)	201 (63.4)	90 (28.4)	24 (7.6)	32 (10.1)	9 (2.8)	0 (0.0)	15 (4.7)	54 (17.0)	17 (5.4)	15 (4.7)	44 (13.9)	23 (7.3)	9 (2.8)	94 (29.7)	13 (4.1)	57 (18.0)	33 (10.4)	10 (3.2)	7 (2.2)	317 (100.0)
保育士	129 (64.5)	8 (4.0)	100 (50.0)	49 (24.5)	17 (8.5)	44 (22.0)	9 (4.5)	3 (1.5)	6 (3.0)	26 (13.0)	10 (5.0)	13 (6.5)	14 (7.0)	8 (4.0)	10 (5.0)	21 (10.5)	8 (4.0)	15 (7.5)	21 (10.5)	8 (4.0)	7 (3.5)	200 (100.0)
看護師	240 (55.3)	21 (4.8)	279 (64.3)	35 (8.1)	44 (10.1)	106 (24.4)	10 (2.3)	6 (1.4)	71 (16.4)	56 (12.9)	15 (3.5)	9 (2.1)	33 (7.6)	37 (8.5)	10 (2.3)	27 (6.2)	8 (1.8)	57 (13.1)	48 (11.1)	5 (1.2)	26 (6.0)	434 (100.0)
学童保育指導員	24 (68.6)	1 (2.9)	17 (48.6)	4 (11.4)	2 (5.7)	6 (17.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.7)	6 (17.1)	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.7)	2 (5.7)	2 (5.7)	2 (5.7)	2 (5.7)	7 (20.0)	6 (17.1)	2 (5.7)	0 (0.0)	35 (100.0)
介護福祉労働者	26 (63.4)	2 (4.9)	28 (68.3)	6 (14.6)	3 (7.3)	9 (22.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (9.8)	5 (12.2)	1 (2.4)	1 (2.4)	4 (9.8)	3 (7.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (17.1)	2 (4.9)	11 (26.8)	1 (2.4)	1 (2.4)	41 (100.0)
研究職	4 (14.8)	3 (11.1)	10 (37.0)	3 (11.1)	1 (3.7)	2 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	5 (18.5)	5 (18.5)	3 (11.1)	7 (25.9)	6 (22.2)	4 (14.8)	4 (14.8)	5 (18.5)	1 (3.7)	1 (3.7)	27 (100.0)
その他専門職	626 (50.0)	65 (5.2)	581 (46.4)	333 (26.6)	50 (4.0)	120 (9.6)	20 (1.6)	9 (0.7)	42 (3.4)	190 (15.2)	138 (11.0)	187 (14.9)	187 (14.9)	129 (10.3)	74 (5.9)	190 (15.2)	43 (3.4)	84 (6.7)	128 (10.2)	53 (4.2)	38 (3.0)	1253 (100.0)
運輸・交通	31 (50.8)	3 (4.9)	37 (60.7)	9 (14.8)	2 (3.3)	5 (8.2)	1 (1.6)	3 (4.9)	6 (9.8)	2 (3.3)	5 (8.2)	11 (18.0)	6 (9.8)	9 (14.8)	4 (6.6)	4 (6.6)	5 (8.2)	5 (8.2)	6 (9.8)	2 (3.3)	2 (3.3)	61 (100.0)
その他	61 (70.9)	8 (9.3)	35 (40.7)	6 (7.0)	5 (5.8)	11 (12.8)	2 (2.3)	2 (2.3)	4 (4.7)	22 (25.6)	3 (3.5)	2 (2.3)	8 (9.3)	10 (11.6)	15 (17.4)	6 (7.0)	1 (1.2)	11 (12.8)	10 (11.6)	3 (3.5)	1 (1.2)	86 (100.0)
無回答	16 (43.2)	3 (8.1)	8 (21.6)	3 (8.1)	0 (0.0)	5 (13.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (27.0)	2 (5.4)	3 (8.1)	1 (2.7)	1 (2.7)	2 (5.4)	1 (2.7)	1 (2.7)	2 (5.4)	5 (13.5)	0 (0.0)	13 (35.1)	37 (100.0)

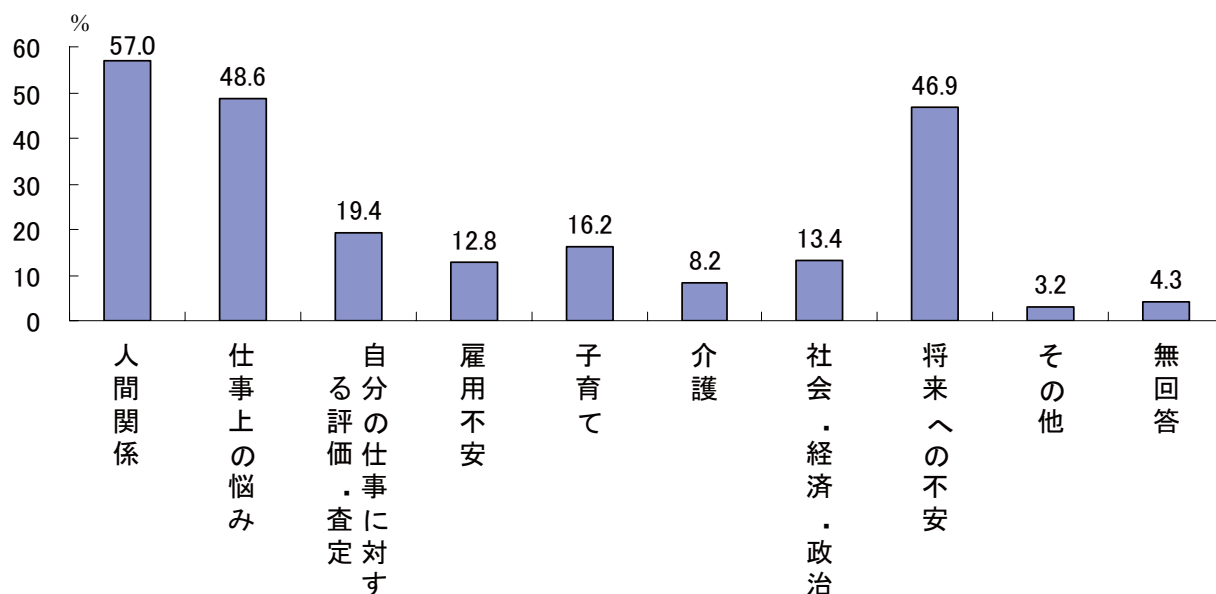
最も多かったのは「人員増」の53.0%、次いで「賃金の引き上げ」49.2%、「労働時間の短縮」22.3%となった。職種別では、選択肢別に要求の多かった職種を見ていくと、「賃金の引き上げ」は、工場・生産現場で8割を超え、学童保育指導員、介護福祉労働者、保育士で6割を超えている。「人員増」は介護福祉労働者、看護師、教職員、運輸・交通で6割を超えている。「休日・休暇の増加」は工場・生産現場で、「教育訓練・研修制度の改善・拡充」は販売員・店員で、「リストラ「合理化」をやめる」は研究職で、それぞれ3割を超えている。「退職金の引き上げ」と「労働安全衛生・職場環境の改善」はその他現業で、「母性保護拡充」はマスコミ現場で、「労働時間の短縮」、「成果・業績賃金・人事管理をやめる」は教職員で3割弱となっている。「人間関係の改善」は介護福祉労働者で2割を超えている。その他、「不払い（サービス）残業の一扫」は販売員・店員で、「変形労働の是正」は運輸・交通で、「時間外・休日・深夜労働の割増率の引き上げ」は看護師で、「育児休業制度改善」は運輸・交通と研究職で、「介護休業制度改善」は研究職で多かった。

年齢別では、「賃金の引き上げ」は20～24歳で71.8%、「退職金の引き上げ」は50～59歳、60～64歳で約3割、「母性保護拡充」は25～29歳13.6%、30～34歳13.7%、「育児休業制度改善」は、25～29歳19.4%、30～34歳18.9%となった。

34. どんなことでストレスを感じますか(3つ以内回答)

◆全体

人間関係	仕事上の悩み	自分の仕事に対する評価・査定	雇用不安	子育て	介護	社会・経済・政治	将来への不安	その他	無回答	計
2369 (57.0)	2019 (48.6)	804 (19.4)	533 (12.8)	674 (16.2)	340 (8.2)	555 (13.4)	1947 (46.9)	132 (3.2)	177 (4.3)	4155 (100.0)



▲ 図34 ストレスを感じる事(全体—3つ以内回答) ▲

全体では、「人間関係」が57.0%と最も多く、次いで「仕事上の悩み」48.6%、「将来への不安」46.9%となった。年齢別では「人間関係」は20～24歳で65.5%、25～29歳62.2%、「仕事上の悩み」は25～29歳で58.5%、「子育て」は40～44歳で31.4%、35～39歳で28.0%、「社会・経済・政治」は60～64歳で33.3%、50～59歳で24.9%と多かった。

◆年齢別

	人間関係	仕事上の悩み	自分の仕事に対する評価・査定	雇用不安	子育て	介護	社会・経済・政治	将来への不安	その他	無回答	計
15～19歳	7 (63.6)	6 (54.5)	2 (18.2)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (63.6)	1 (9.1)	0 (0.0)	11 (100.0)
20～24歳	156 (65.5)	122 (51.3)	60 (25.2)	13 (5.5)	4 (1.7)	3 (1.3)	12 (5.0)	100 (42.0)	12 (5.0)	15 (6.3)	238 (100.0)
25～29歳	384 (62.2)	361 (58.5)	137 (22.2)	50 (8.1)	34 (5.5)	4 (0.6)	40 (6.5)	293 (47.5)	11 (1.8)	20 (3.2)	617 (100.0)
30～34歳	449 (59.3)	416 (55.0)	139 (18.4)	98 (12.9)	119 (15.7)	23 (3.0)	69 (9.1)	380 (50.2)	22 (2.9)	24 (3.2)	757 (100.0)
35～39歳	369 (55.6)	335 (50.5)	91 (13.7)	102 (15.4)	186 (28.0)	36 (5.4)	70 (10.5)	291 (43.8)	28 (4.2)	24 (3.6)	664 (100.0)
40～44歳	262 (54.8)	219 (45.8)	95 (19.9)	82 (17.2)	150 (31.4)	52 (10.9)	62 (13.0)	197 (41.2)	13 (2.7)	16 (3.3)	478 (100.0)
45～49歳	255 (53.7)	207 (43.6)	82 (17.3)	94 (19.8)	108 (22.7)	71 (14.9)	73 (15.4)	223 (46.9)	19 (4.0)	18 (3.8)	475 (100.0)
50～59歳	459 (53.8)	343 (40.2)	187 (21.9)	88 (10.3)	72 (8.4)	144 (16.9)	212 (24.9)	435 (51.0)	24 (2.8)	42 (4.9)	853 (100.0)
60～64歳	25 (55.6)	9 (20.0)	10 (22.2)	4 (8.9)	0 (0.0)	7 (15.6)	15 (33.3)	18 (40.0)	2 (4.4)	6 (13.3)	45 (100.0)
65歳以上	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
無回答	2 (13.3)	1 (6.7)	1 (6.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	3 (20.0)	0 (0.0)	11 (73.3)	15 (100.0)

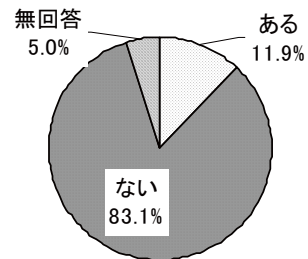
35-①.1年間に家族が2週間以上の介護を必要とする病気・けがをしたことがありますか

◆全体

ある	ない	無回答	計
495 (11.9)	3454 (83.1)	206 (5.0)	4155 (100.0)

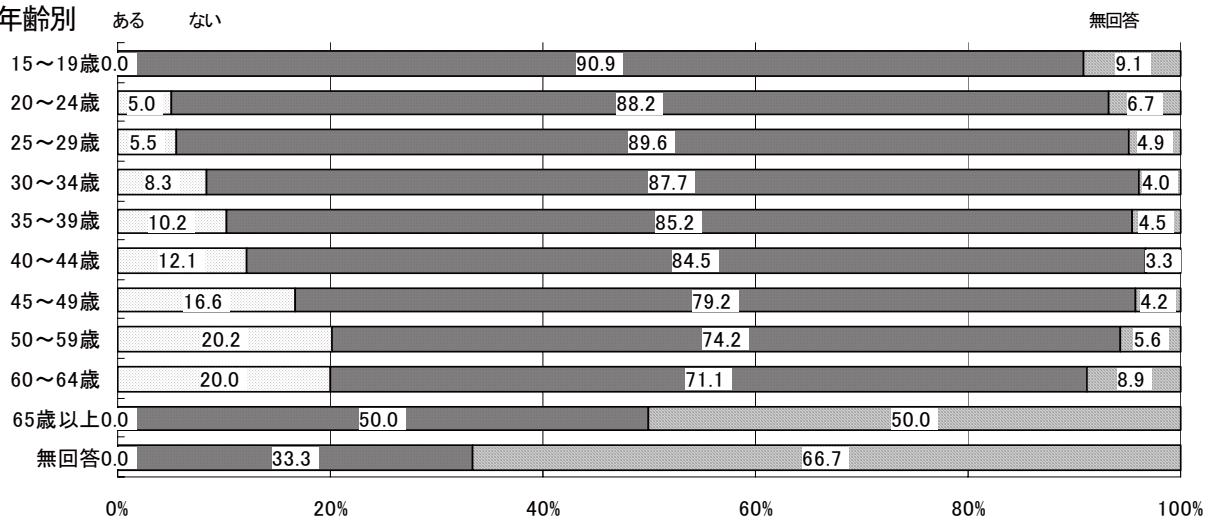
全体では「ある」は11.9%、「ない」は83.1%となった。

年齢別では、50～59歳、60～64歳で「ある」が2割を超えた。



▲ 図35-1 2週間以上の家族介護の必要の有無(全体) ▲

◆年齢別



▲ 図35-2 2週間以上の家族介護の必要の有無(年齢別) ▲

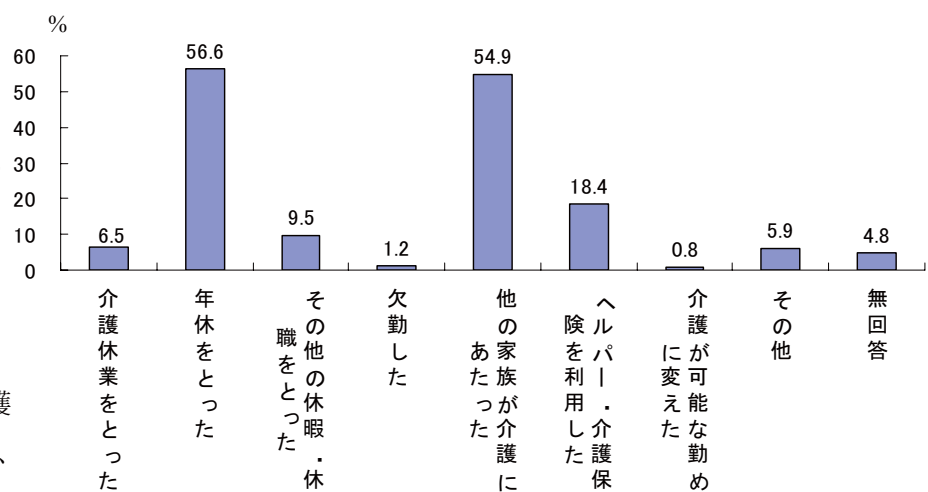
35-②.どのように介護しましたか(「ある」人が複数回答)

◆全体

介護休業をとった	年休をとった	その他の休暇・退職をとった	欠勤した	他の家族が介護にあたった	ヘルパー・介護保険を利用した	介護が可能な勤めに変えた	その他	無回答	計
32 (6.5)	280 (56.6)	47 (9.5)	6 (1.2)	272 (54.9)	91 (18.4)	4 (0.8)	29 (5.9)	24 (4.8)	495 (100.0)

全体では、「年休を取った」56.6%、「他の家族が介護にあたった」54.9%、「ヘルパー・介護保険を利用した」18.4%となった。「介護休業をとった」は6.5%となった。

年齢別では、「年休をとった」が、30～34歳、35～39歳で6割を超えた。「ヘルパー・介護保険を利用した」は45～49歳、50～59歳で2割を超えている。



▲ 図35-3 家族介護への対処方法(全体—複数回答) ▲

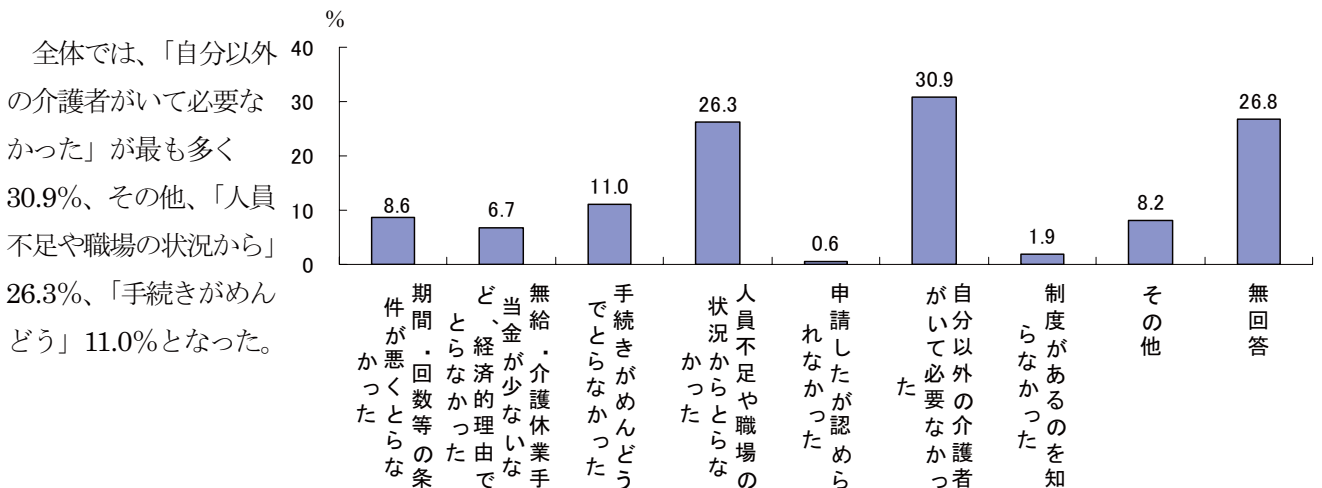
◆年齢別

	介護休業をとった	年休をとった	その他の休暇・休職をとった	欠勤した	他の家族が介護にあたった	ヘルパー・介護保険を利用した	介護が可能な勤めに変えた	その他	無回答	計
20～24歳	0 (0.0)	3 (25.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	8 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	12 (100.0)
25～29歳	0 (0.0)	11 (32.4)	2 (5.9)	0 (0.0)	22 (64.7)	3 (8.8)	1 (2.9)	0 (0.0)	3 (8.8)	34 (100.0)
30～34歳	6 (9.5)	39 (61.9)	7 (11.1)	0 (0.0)	35 (55.6)	6 (9.5)	0 (0.0)	4 (6.3)	0 (0.0)	63 (100.0)
35～39歳	2 (2.9)	45 (66.2)	9 (13.2)	1 (1.5)	42 (61.8)	9 (13.2)	1 (1.5)	3 (4.4)	0 (0.0)	68 (100.0)
40～44歳	2 (3.4)	30 (51.7)	5 (8.6)	2 (3.4)	34 (58.6)	9 (15.5)	0 (0.0)	5 (8.6)	2 (3.4)	58 (100.0)
45～49歳	3 (3.8)	46 (58.2)	7 (8.9)	1 (1.3)	41 (51.9)	18 (22.8)	0 (0.0)	7 (8.9)	6 (7.6)	79 (100.0)
50～59歳	16 (9.3)	102 (59.3)	16 (9.3)	2 (1.2)	87 (50.6)	45 (26.2)	2 (1.2)	10 (5.8)	10 (5.8)	172 (100.0)
60～64歳	3 (33.3)	4 (44.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (33.3)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	9 (100.0)

35-③介護休業をとらなかった理由(2つ以内回答)

◆全体

期間・回数等の条件が悪い	無給・介護休業手当金が少ないなど、経済的理由	手続きがめんどうでとらなかった	人員不足や職場の状況から	申請したが認められなかった	自分以外の介護者がいて必要なかった	制度があるのを知らなかった	その他	無回答	計
40 8.6	31 6.7	51 11.0	122 26.3	3 0.6	143 30.9	9 1.9	38 8.2	124 26.8	463 121.2

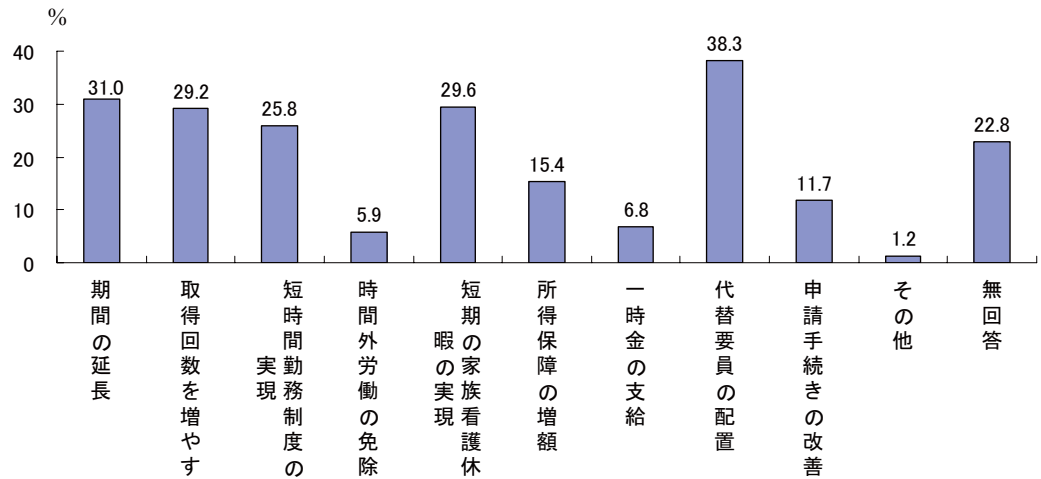


▲ 図35-4 介護休業をとらなかった理由(全体—2つ以内回答) ▲

36.介護休業制度の改善にむけた要求(3つ以内回答)

◆全体

期間の延長	取得回数を増やす	短時間勤務制度の実現	時間外労働の免除	短期の家族看護休暇の実現	所得保障の増額	一時金の支給	代替要員の配置	申請手続きの改善	その他	無回答	計
1286 (31.0)	1213 (29.2)	1074 (25.8)	244 (5.9)	1228 (29.6)	639 (15.4)	283 (6.8)	1590 (38.3)	487 (11.7)	48 (1.2)	946 (22.8)	4155 (100.0)



▲ 図36 介護休業制度改善への要求(全体—3つ以内回答) ▲

全体では、「代替要員の配置」が最も多く 38.3%、次いで「期間の延長」31.0%、「短期の家族看護休暇の実現」29.6%、「取得回数を増やす」29.2%となった。